

東京ライオンズクラブ
50周年記念誌

東京ライオンズクラブ 50周年記念誌





常陸宮正仁親王殿下のお言葉



このたび、ライオンズクラブ国際協会330-A地区、東京ライオンズクラブがめでたく結成50周年を迎えられることに心から祝意を表します。

東京ライオンズクラブは、1952年3月に日本で最初のライオンズクラブとして結成以来、今日まで50年の長きにわたって「自由」「知性」並びに国家の「安全」を基本理念として地元地域をはじめ国の内外で活発な社会奉仕活動を実施するとともに、さらに進んで国際社会の融和と繁栄に格段の貢献をされてきたことに深く感謝の意を表します。

この式典を契機に、会員全員がますます相互の理解を深め、将来に大きな成果をもたらすのみでなく、全日本3300余クラブ、会員14万2000名を擁する世界的社会奉仕団体の範として発展されることを念願してやみません。

祝 辞

東京都知事
石原 慎太郎



東京ライオンズクラブが結成50周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。また、皆様におかれましてはご多忙なお仕事のかたわら、国内ばかりか海外においても数多くの奉仕活動を実践されておられますことに深く敬意を表します。

最近の日本では、若者のボランティア活動なども活発になってきていますが、反面、あいさつをすることなど、社会生活を営む上での基本的なルールさえ身につけてない子供が増えています。このため、東京都では、次代を担う子供たちに対して親と大人が責任をもって、正義感や倫理観、思いやりの心を育み、人が生きていく上での当然の心得を伝えていく取り組みとして「心の東京革命」を提唱し、家庭、学校、地域、社会全体で取り組んでいます。

貴クラブの皆様におかれましては、早速「心の東京革命」の趣旨にご賛同いただきましたことに、心から御礼申し上げます。

また、貴クラブでは50周年の記念事業として、カンボジア地区の地雷除去活動への支援、車椅子に乗ったまま昇降できる介護車の寄付、留学生への奨学資金の支援を実施されると同っています。

皆様の社会奉仕に注がれる情熱は誠に心強い限りです。

21世紀の幕開けに当たり、また、結成50周年という節目の年を契機として、皆様により一層結束を固められ、地域社会をはじめ国際社会においても活発な奉仕活動を続けられますことと、皆様の今後ますますのご活躍とご健勝を祈念して、お祝いの言葉とします。

祝 辞

ライオンズクラブ国際協会
国際会長

J・フランク・ムーアⅢ



このたび貴クラブが晴れて50周年記念を迎えられますこと、国際役員ならびに国際理事会を代表し、心からお祝い申し上げます。

顧みればこの50年、貴クラブは日本におけるライオニズムの象徴として堅実な発展を成し遂げてこられました。数多く実施し、成功をもたらしたアクティビティの中でも、インド救ライとスズラン給食は日本のライオンズクラブ会員なら知らない人はいないほど、知れ渡った奉仕事業でした。これらの事業がその後、何千、何万という奉仕心に富む人々をライオンズクラブへ導くことになったことは疑う余地もありません。

大戦後まもなく、誰もが物質的に十分満足できない世情にあって、独力で不可能なことでも力を合わせれば、国内はもとより国外の同胞へも救いの手を差し伸べることができることを、繰り返し実証し続けた当時の東京ライオンズクラブの先輩ライオン諸氏に対し、心から称賛と感謝の意を表する次第です。

優れた会員によって築かれた輝かしい50年の伝統を誇りとし、今後いかにして時勢にそった感謝される奉仕活動を実施していくかは、貴クラブのみならず、ライオンズクラブ会員すべてに課せられた大きなチャレンジです。私は皆さんがこのチャレンジを正面から受けて立ち、世界のライオンズクラブのリーダーとしてますます活躍していかれることを期待しております。

祝 辞

ライオンズクラブ国際協会
国際理事

団 忠 夫



貴クラブは、結成以来50年の永きにわたり人道主義のもと数多くの奉仕活動を展開され、日本におけるライオニズムの象徴として堅実な発展を遂げられました。その功績を祝う今こそ将来の計画を立てる最適の時でもあります。初心を忘れることなく、さらに力強く奉仕の意欲に燃えていることを確かめる時でもあります。貴クラブの年輪に思いをはせ深い感銘を覚えるとともに、今後さらに会員増強を促し、あらゆるレベルの指導力を育成され、地域社会のニーズに応えられることを大いに期待申し上げます。ますますのご発展と会員皆様のご健勝とご活躍を心から祈念し、祝辞といたします。

祝 辞

ライオンズクラブ国際協会
国際理事

麻 生 貞 市



今日まで継続してクラブの発展にご尽力されました歴代役員の方々をはじめメンバーの皆様方のご努力に対し、深く敬意を表します。人間には遺伝子細胞に「テロメア」という新陳代謝を司る細胞があると聞きます。これを使い切ると新陳代謝が止まり、老化していくそうです。われわれの組織も、変えることのできない基本は基本としても、常に変化を求め、新しいアイデアを取り入れ、老化しないよう頑張ろうではありませんか。50周年が新しいスタートの節目となることを期待し、会員の皆様のご活躍と貴クラブのますますの発展をご祈念申し上げます、祝辞とさせていただきます。

お祝いのことば

ライオンズクラブ国際協会

330-A地区ガバナー

中 野 了



東京クラブ結成50周年おめでとうございます。私は地区ガバナーとして、東京クラブの皆さまとご一緒にこの日を迎えることができ、誠に光栄であると同時に心からの喜びと感激で胸が一杯です。

1970年、上田常隆ガバナーに請われて入会9年目の私が地区の副幹事を務めさせていただきました。幹事は彩酒井忠博、会計が彩前田幸蔵、副会計が彩松本裕と東京クラブを代表する方々であり、しかももう一人の副幹事は後に国際理事になられた彩嘉悦康人でした。このような素晴らしい方々の間で私はたくさんの教えや感動をいただきました。ライオンズムの灯火がフィリピンから怨讐を乗り越えて渡ってきてまだ18年というそのときに、上田ガバナーは機会があるたびに「原点に返ろう」と訴え続けておられました。「諸行事の華美を廃し実質を旨として、いやしくも世間の誤解を受けることのないよう」とも呼びかけておられました。また、しばしば「自分の仕事あつてのライオンズだよ」とお話をなさっていました。このような「上田語録」から私はライオンズについての多くのものを学び、人の道を教えていただいたのです。

東京クラブ50年の奉仕活動の歴史の中で、「インド救ライ事業」「スズラン給食」「リッチランドの壺」などは今でも地区内の多くのクラブで語り継がれているほどです。

このように貴クラブは単に日本で最初に結成されたクラブということだけでなく、常に我が国のライオンズクラブの中心的、指導的、模範的役割を担ってこられたのです。私は50周年にあたり、330-A地区を代表して心からの敬意と感謝を捧げたいと存じます。

終わりに、貴クラブがその歴史と素晴らしい伝統を積み重ね、ますますのご発展をなさいますことと、同時に会長・彩歌田勝弘はじめ会員各位のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

Congratulatory Message

マニラライオンズクラブ会長

Ambassador ERNESTO M. MACEDA



The Manila (Host) Lions Club, all its officers and members, extend their heartfelt congratulations and fraternal blessings to the Tokyo Lions Club on the occasion of its 50 th Anniversary.

Through five decades, the Tokyo Lions Club and Manila (Host) Lions Club have closely cooperated in many projects and activities to spread the gospel of Lionism.

At this critical juncture of history where Japan and the Philippines are undergoing so many problems of globalization, declining economic development as well as social development, it is significant that our two clubs have remained more committed to mutual assistance and support.

More power to you and many more years of success in promoting Lionism.

Congratulatory Message

台北ライオンズクラブ会長

C.F.Hor



As president of Taipei (Host) Lions Club, I consider it an honor and privilege to extend my warmest greetings and heartiest congratulations on the occasion of the 50 th Anniversary of Tokyo Lions Club and for that matter, the introduction of Lionism in Japan.

Your activities in serving the needy during these many years have been quite impressive and we all look forward to your many significant accomplishments in the years ahead.

We anticipate many more years of mutual friendship and cooperation.

We wish and pray for your continued success.

Congratulatory Message

ソウルライオンズクラブ会長

Ku Bum Kwon



It is my pleasure to take this opportunity to extend my best wishes and heartfelt congratulations on your club's 50 anniversary.

It has been 33 years, since 1969, when we have established sister club relations with your club.

Your club members have achieved much by working together to contribute toward a better international understanding and deeper friendship between both clubs.

And I am sure our friendship will become much deeper as our sister club relations continue.

Because of the dedication of the respectable Lions of Tokyo Lions Club, you have improved the lives of people in need in your own community as well as around the world. It is this constant commitment that has given the association of our clubs its remarkable reputation.

As we celebrate our achievements, we must also continue our efforts to satisfy the need of people as well as of our club and our members in every aspect while contributing to the creation of much better service that will ensure a brighter future for all.

Again, I heartfully congratulate you on your 50th anniversary, and wish you continued success and good health.

結成50周年記念にあたって

東京ライオンズクラブ会長

歌田 勝弘



21世紀という新しい世紀にあたり、日本最初のライオンズクラブである東京クラブが、半世紀の歴史を記念することができたことは本当に喜ばしく、誇りに思うと同時に、これまで育ててくださった国際協会をはじめ、内外の多くの関係者およびクラブの先輩たちに厚く感謝を申し上げます。

この機会に私は2つの点を申し上げたいと思います。

第1点は、ライオニズムの理想と現実の姿です。1917年、創設者のメルビン・ジョンズ氏の描いたライオニズムの理想は、「ライオニズムの原点は愛であり、思いやりであり、私のこころ」でありました。究極の目的が世界の平和であったはずです。

それが2001年9月11日のアメリカにおけるテロ同時発生事件で、まさに世界に戦争状態が現出しました。そのほかにも局地的な小競り合いが絶えていません。私たちはテロを憎み、その被害者に哀悼の意を表します。私どもは何とかこれを早くおさめ、文明の衝突にならないで世界に平和が訪れることを祈っています。同時に、世界に存在する多様性を認め、共生を願わざるを得ません。今こそ我々ライオンズがLiberty, Intelligence, Our Nation's Safetyを世界に呼びかけなければいけないことだと考えます。

それにしても私どもは、我が東京クラブのスポンサーであるマニラクラブのことを忘れることができません。1952年、フィリピンは第2次大戦の余波がまだおさまらず、対日感情は極めて悪かったと想像されます。そのような状況を超越して、ライオニズムの灯を日本にともし、スポンサーをしてくれたマニラクラブの英断に私たちは深い感慨を覚えるとともに敬意を表します。

第2点は、50周年記念は過去の種々の栄光を誇り、感謝の祝いをするだけでなく、次の発展のための飛躍台にするのでなければならないと思います。今、日本のライオンズクラブのほとんどが持つ悩み、問題点が多くあります。個々のクラブの内蔵する問題もあるでしょうし、時代環境変化による影響もあります。これは世界の137万人余のライオンズ、日本の14万2000人余の問題でもあり、当然我々東京クラブ60数人の問題でもあります。この際これらの課題を解決し、魅力あるライオンズクラブづくりのジャンプ台にしたいと願っています。

私どもは世界のライオンズ仲間と手を組んで、少しでも世界の人々の幸福と繁栄に貢献しようではありませんか。

結成50周年記念事業

一、老人介護車 2 台贈呈

〈贈呈先〉東京都中央区役所 日産キャラバン2400型

金 3,950,000円

〈贈呈先〉東京都千代田区役所 日産プリメーラ2000型

金 2,830,000円

一、50周年記念留学生奨学金贈呈

〈贈呈先〉財団法人 日本国際教育協会

金10,000,000円

一、地雷除去支援金贈呈

〈贈呈先〉特定非営利活動法人 人道目的の地雷除去支援の会

金18,000,000円

これらの記念事業は、ライオンズクラブのスローガン「Liberty, Intelligence, Our Nation's Safety（自由を守り、知性を重んじ、われわれの国の安全をはかる）」にのっとったもので、

Liberty——老人の自助、自立を促すべく介護車を贈呈

Intelligence——教育助成として外国人留学生に奨学金を贈呈

Our Nation's Safety——国境を超えた愛の活動、人道目的の地雷除去活動への支援
という形で選択いたしました。

（アクティビティ部会長・玉井 外茂）



老人介護車



セミナーで交歓する留学生と日本人学生



地雷の撤去作業



チャータ・ナイト 1952年3月21日 ホテルテイト (現・パレスホテル)

The International Association OF Lions Clubs CHARTER

To All to Whom These Presents Shall Come:
GREETING

Know Ye that The International Association of Lions Clubs has granted, and by these presents does grant to the Members, whose names are hereunto affixed, and to all regularly elected members and their successors, this Charter fully constituting them a Local Club, under the name and title of

THE LIONS CLUB OF
Tokyo

Located at Tokyo, Japan, with all the rights and privileges given to members of The International Association of Lions Clubs, according to the rules and regulations of the constitution and by laws of the International Association now in force, and hereinafter enacted. This Charter shall be in full force and effect from the day of the date hereof, and for such time as the Members of this Local Club shall conform to the laws and rules of the International Association. Otherwise this Charter shall be revoked.

In Witness Whereof, The International Association of Lions Clubs has authorized its President and Director-General to affix their signatures, and caused the seal of the Association to be hereunto affixed this 15th day of March in the year of our Lord 1952.

R. Roy Keaton
Director-General

PRESIDENT



Charter Members

SADAKATSU AZUMA	JOSE B. BOLAÑO	HAROLD N. BORGER	RAYMOND L. BEDILLION
VICENTE O. COBARRUBIAS	ANSELM CHUH	PETE J. DEMETROS	FRANCISCO C. DA ROSA
KAJI DOMOTO	JAMES FARREL	JOSEPH M. FERRIS	TARO FUKUDA
MASASHIGE FURUKAWA	TSUTAE FUJISAWA	ALBERT HATEM	KENJI HIROBE
TSUNEJI HIBINO	NIRO HOSHIMURA	SOL HAAR	MASAKATSU HAMAMOTO
YUKIO IDOH	ENRIQUE Y. IMAMURA	IKUSABURO IJIN	SHINSUKE ISHIZEKI
KIN-ICHI ISHIKAWA	HIROSHI ISHIDA	YOSHIO ISHIDA	KAN KONDO
GEORGE KRAKOWER	KISAKU MATSUSHIMA	GEORGE B. MORGULIS	SUMIO MAKINO
JIRO NANYE	TOHEI NORITAKE	RINNOSUK NAKANE	HISAYUKI OHARA
SEITARO OKAMATSU	WARREN F. PROVOST	JOSEPH O. RECHTER	LOPE SARREAL
ALEXANDER E. SHVETZ	JOSEPH S. SYKES	IKE SZPIRO	MASAO SAKURABA
TAMOTSU SHIOBARA	NORIO SAIGO	KAZUTAKA SHIMIZU	SHUJI TATEGAMI
SOICHI TSUSUE	KEIJI TSUSUE	HIROYUKI TANAKA	TAKASHI TANABE
RYONOSUKE TOYOKAWA	MAKOTO TOMONARI	JACOB TROPP	SEISABURO YAMANAKA



25周年記念アクティビティで補修・改新した日本武道館前の時計塔。この時計塔は1969年 7 月、東京で開催された第52回世界大会に先立ち、302E-1地区（東京・埼玉）が寄贈したもの

日本ライオンズ50周年記念郵便切手

2002年 3 月 1 日、「日本ライオンズ50周年記念 第85回国際大会・大阪市」の郵便切手が発行された。この記念郵便切手は、当クラブが2001年の初めから継続して発行の要請を行ってきて、ようやく実現の運びとなったものである。

この切手のデザインに使われたゴングは当クラブのゴングをモデルにしたもの。また、獅子は京都・養源院に伝わる、俵屋宗達描く杉戸絵（国指定重要文化財）の一对の獅子の片方で、もう一方の獅子は1978年 6 月に東京で開催された第61回国際大会の際の「記念郵便切手」に使われている。





会員集合写真

(2001年10月25日撮影)

5段目左から清藤太郎、坪井一高、田島久教、風間敏英、木場芳紀、伊藤一正、位田敏一、岡田裕

4段目左から大澤裕、岡田光一郎、網田邦彦、神部範生、柴田博一、太田嘉子（フルート）、福田富美（ピアノ）、遠藤奈津子（事務局）

3段目左から浜本正信、井上正義、長宗新作、坂下賢三、堀孝至、山本和夫、清水勢介、宮川一郎、石井正弘

2段目左から箕島清人、玉井外茂、佐倉泰雄、和井内清、羽鳥藤雄、林田悦典、盛郷重光、一色浩、後藤茂彦、小泉駿一

1段目左から巽良夫、平賀孝、丸山三郎、有竹隆、若林法雄、歌田勝弘、三崎矩光、倉橋泰史、小宮山宇一、星川博道、池崎道男

目 次

常陸宮正仁殿下お言葉

祝 辞 東京都知事 石原 慎太郎

祝 辞 ライオンズクラブ国際協会 国際会長 J・フランク・ムーア III

祝 辞 ライオンズクラブ国際協会 国際理事 団 忠 夫

祝 辞 ライオンズクラブ国際協会 国際会長 麻 生 貞 市

お祝いのことば ライオンズクラブ国際協会 330-A地区ガバナー 中 野 了

Congratulatory Message マニラライオンズクラブ会長 Ambassador ERNESTO M. MACEDA

Congratulatory Message 台北ライオンズクラブ会長 C.F.Hor

Congratulatory Message ソウルライオンズクラブ会長 Ku Bum Kwon

結成50周年記念にあたって 東京ライオンズクラブ会長 歌 田 勝 弘

結成50周年記念事業

口 絵

東京ライオンズクラブ会員集合写真

東京ライオンズクラブ物語

ゴンザレス国際理事の提案 20/マニラから東京へ 22/カムオン、カムオンと会員
集め 25/東京にともったライオニズムの灯 28/過去をして過去たらしめよ 31/
35番目のライオンズ大国として発足 33/東京?企画ラジオ番組『書斎から』の放送
34/コラム「うれしいニュース」 36/欠席者続出英語だらけの例会 38/クラブ運
営軌道に乗る 41/アクティビティ事始め 44/リッチランドからの緊急便 46/東
京都内外に広がるライオニズム 49/インド救ライを推進させる 52/若者たちを支
えた奨学資金始まる 54/音楽で和むクラブ例会 55/ライオンズ・マークの消防司
令車 58/評価された国際的な会議の設営 58/花薫るスズラン給食 60/善意に守
られたサメにかまれた漁船員 62/15周年記念の年に盲導犬協会発足 63/姉妹提携
と初の国際大会開催準備 65/20周年記念基金を積み立て活用 66/25周年記念で時
計塔補修・改新 67/合同歌舞伎チャリティー・ショーの実施 69/数寄屋橋公園に
花時計 70/50周年を見通した奉仕事業 71

ライオンズローア 半世紀の響き

あの日あの頃あのライオンが.....74

石川 欣一「東京ライオンズ・クラブのラジオ活動について」.....74

式場隆三郎「らいおんず快談」.....75

座 談 会「黎明の鐘を打ち鳴らした人々かく語る」	77
酒井 忠博「スズランの便り」	83
上田 常隆「人類愛を今こそインド救ライに」	84

50周年を迎え かく思いかく考える 88

三崎 矩光「50周年を迎えて」	88
一色 浩「尾上松緑さんの思い出」	89
盛郷 重光「28年目の思い」	90
羽鳥 藤雄「ライオンズ生活について——最近の所感——」	91
林田 悦典「旅と親善」	92
坂下 賢三「親睦団体でいいじゃない」	93
小泉 駿一「なんとかしなきゃ」	94

座 談 会「東京クラブの今、そして明日」 96

〈出席者〉神部 範生・井上 正義・堀 孝至・
位田 敏一・浜本 正信・岡田 裕（司会）

資 料

会員名簿	102
会友	103
歴代会長・幹事・会計	104
物故者	106
退会者	107
スポンサー・クラブ／スポンサーしたクラブ／シスタークラブ	110

編集後記	111
------	-----

東京ライオンズクラブ物語



●ライオンズクラブの歌●

作詞：藤浦 洸 作曲：古関 裕而

- 一 ひろい世界を ひとつに結ぶ 同じ志の^{ニころ} 手と手に通う
自由 信頼 叡智のきずな 切っちゃならない いつまでも
おう おう ライオンズ 叫べ正しく ライオンズ われら
- 二 胸に掲げた^{エル} L字の誇り 高い理想に 輝くひとみ
人に この世に 奉仕のまこと 築く平和の礎だ^{いしづえ}
おう おう ライオンズ 謳え 明るく ライオンズ われら
- 三 若いみどりを 生命のかぎり 胸にもやして その火を消すな
道は正しく 生活の底に^{くらし} ひそむ若獅子 いさましや
おう おう ライオンズ ほえよおおしく ライオンズ われら

ゴンザレス国際理事の提案

日本のライオンズクラブの歴史は、東京ライオンズクラブの誕生から始まる。すべてはそこから起こり、すべてがそこに起源を持つ。その誕生を語ることは、日本のライオンズクラブのいわれを語ることであり、その生い立ちの経緯をつづることは、日本のライオニズムの源流を語ることでもある。

時は50年余をさかのぼる。1951年秋、アメリカ合衆国イリノイ州シカゴ、ミシガン通りバンビューレン街のマコーミック・ビルのライオンズ国際協会の一室。国際協会がまだオークブルックに自前のビルを持つ前のことである。

男たちが集まっていた。その中の一人が静かに、しかし強い語気で話し出した。フィリピンの国際理事、マニラ³⁷の³⁸マヌエル・J・ゴンザレスであった。その席にいた³⁹カーティス・D・ロービル（62 - 63 年度国際会長）の証言。

「彼がフィリピンのライオニズムについて話をし、大戦中日本から加えられた被害の様子を地図で一々指し示しながら、長々と説明しました。私達は⁴⁰ゴンザレスの口調から察して、彼らフィリピンの人たちがいかに苦しみ、いかに当時の敵国を憎んでいたか、ありありと思い浮かべることが出来ました」

16世紀以降スペインの植民地だったフィリピンは、19世紀後半になって民族革命運動が起こり、アメリカが介入して米西戦争に発展、1898年には革命軍が独立を宣言したが、3年後にはアメリカが統治し、それに対する抵抗運動も起こった。太平洋戦争勃発の翌年、

1952年（昭和27）

4 月 日航機「もく星号」、大島の三原山に墜落
4 月 講和条約発効、GHQ廃止
5 月 血のメーデー事件
ブーム 「君の名は」ブーム

3 月 東京⁴¹チャーター・ナイト
10月 東京⁴²共同募金に1万円贈呈
（日本ライオンズ最初のアクティビティ）

※ 〈 〉 内は『ライオン誌』をはじめ各種文献からの引用。

日本が占領し、43年に日本はフィリピンを独立国としたが、反日ゲリラ運動も各地で起こった。戦争末期になるとアメリカ軍が反転攻撃、ゲリラ活動も各地に広がる。アメリカ軍とゲリラ軍に挟まれた日本軍は、ほとんど狂乱状態に陥ったと言われる。ゲリラ討伐ということで、住民の虐殺事件が各地で起こった。

彩ゴンザレスの話は、その憎しみに満ちた事実を語っていく。再び彩ロービルの証言。

くしかし、我々の予期に反して、彼は驚くべき結論を理事会に提出したのです。彼は、日本にライオンズクラブを作るべきだ、その種を植えつけるためにマニラ・ライオンズから人を派遣したいと思うが、理事会でこれを認めてほしいというのです。私たちはただ驚嘆し、しばらくは哑然としました

国際理事会は、この提案をめぐって討議に入った。長い時間が過ぎた。討議に加わっていたのは彩ロービルのほか、後に国際会長を務めた次の6人を含む20余人の人々であった。



日本へのエクステンションが話し合われたマコーミック・ビル

1953年（昭和28）

2月 東京地区でNHKテレビ本放送開始

7月 朝鮮休戦協定調印

世相 街頭テレビに人気集まる

4月 「ライオンズ・ヒム」の日本語訳できる

7月 日本に地区（302地区）が設定される

初代地区ガバナー彩石川欣一

彩エドガー・M・エルバート（52・53年度会長）、彩S・A・ダッジ（53・54年度会長）、彩モンロー・L・ヌート（54・55年度会長）、彩ジョン・L・スティックレー（56・57年度会長）、彩エドワード・G・バリー（57・58年度会長）、彩ダドレー・L・シムズ（58・59年度会長）。

日本にライオニズムの種を植えつけることを検討した人々は、長い討議の末、彩ゴンザレスの提言を入れ、マニラ²⁹の彩ジョージ・パレネンゴアを国際協会の特別代表として日本に送ることを決議した。初めの一步であった。

マニラから東京へ

歴史的な動きが始まる。

国際理事会の承認を得た彩ゴンザレスは、早速日本への接触を開始し、旧知の日本人である今村栄吉氏と連絡をとることにした。今村氏は、フィリピンの独立運動を支援した人で、戦前早くからマニラに渡り、独立運動の指導者で、1898年の独立宣言時に大統領であったエミリオ・アギナルド氏の親交を得た。戦後は日本に引き揚げて、東京マーカンタイル社という名の貿易会社を経営していた。

彩ゴンザレスの手紙を受け取った今村氏は、話を石川欣一氏に持ちかけた。石川氏は戦時中、毎日新聞特派記者としてフィリピンに駐在、両氏は、その縁で共に51年8月に発足したフィリピン友の会の常任理事をしていた。この会は、日比間の友好親善を目的にした唯一の民間団体で、戦前の財界人で通信大臣を務め、戦時中はフィリピン大使でもあった

1954年（昭和29）

3月 米、ビキニで水爆実験。「第五福竜丸」被爆

7月 防衛庁・自衛隊発足

9月 青函連絡船洞爺丸事故

ブーム ヘップバーン・カット

9月 国際協会で「We Serve」のモットー採択



日本へのエクステンションを決定した理事会で、討議に加わっていたロービル元国際会長ら

村田省蔵氏を会長としていた。彩ゴンザレスの手紙をきっかけにして、この後、これらの人間関係が見事な効果を発揮することとなる。

彩ゴンザレスの手紙の内容は、「ライオンズクラブ国際協会の日本の代表にならないか」というものであったが、肝心のライオンズクラブそのものが、どんなものか誰にも分から

1955年（昭和30）

5 月 宇高連絡船紫雲丸沈没事故
8 月 初のトランジスタラジオ発売
10月 社会党統一大会
11月 保守合同で自由民主党結成
ブーム マンボ・スタイル

5 月 第 1 回302地区大会開催（神戸市）



国際協会特別代表の彩ジョージ・バレンゴア

ない。彩石川の回想によると、〈私にしても、今村氏当人でさえも何だかよく分からないものをどうしたらいいのか見当がつかず、従って何らの結論も出せず〉にいる状態が続いた。

一方、マニラの動きは急であった。51年12月、マニラから彩ジョージ・バレンゴアがやって来る。当時、大阪貿易会社の役員をしていて、後に東京のチャーター・メンバーとなる彩井門幸男は、フィリピンの知人を迎えに羽田に出向いた。知人は一人の男彩バレンゴアを伴っていた。彩井門の回想。

〈51年の12月でしたが、ジョージがバイヤーとして来た時に、私、羽田へ迎えに行ったことがあります。そこでいろいろ聞いてみますと、実はライオンズクラブというものを作りたいんだがというので、それではフィリピン友の会というのがあるからと、私が教えてやったのです〉

フィリピン友の会は当時、東京駅八重洲口に近い大阪商船ビルの2階219号に事務所を構えていた。51年の暮れも迫るある一日、彩バレンゴアがその部屋を訪ねる。

当時、日興産業社会長で後に東京のチャーター・メンバーとなる彩塩原有の追想。

〈彩石川欣一や私その他1、2の人とジョージ・バレンゴアと初めて会った。(略)彼は根気よく毎日友の会の部屋に来てライオンズの何ものであるかを説明し始めた。彩石川

1956年（昭和31）

10月 日ソ国交回復

12月 国連、日本の加盟承認

ブーム 慎太郎刈り

流行語 「もはや戦後ではない」、太陽族、一億総白痴化

7月 彩高橋貞太郎、302地区ガバナーに就任

12月 青森市の青年を救うためアメリカのリッチランドから愛の手が差し伸べられる

も私も、もちろんライオンズがなんであるかは初耳で、見せられたパンフレット類を読んで見ると大変良さそうなことが書いてある。初めしばらくの間、彩石川も私もどう扱ったものか躊躇^{ちゅうちゅう}していたが、わざわざフィリピンから日本へ来てブラザー・ライオンにならんかという呼び掛けを断る筋が立たぬし、彩石川も私も日比友好関係改善のため役立つことをやりたいという潜在意識も手伝って、とうとう神輿をあげることに決めた。

55年の第1回年次大会プログラムの『日本におけるライオニズム小史』によると、この後、当時フィリピン友の会の常任理事であった今村栄吉、藤沢伝（一橋大学）、石川欣一の3氏でライオンズクラブについて研究することになり、友の会の村田会長にも相談した。村田会長は日本のロータリークラブの創立メンバーでもあったことから、ライオンズクラブのこともよく知っていて、その設立に賛成し、友の会の事務所を設立事務所に使うことも快諾した。

カムオン、カムオンと会員集め

東京で結成に向けて歯車が回り出す。初代会長で後に日本最初の地区ガバナー・国際理事となる彩石川欣一の回想を基に、結成までの道筋をたどっていくと、次のようになる。

〈バレンゴア君が来てすぐ、来年の3月には第一副会長のエルバート氏が日本を訪れるから、その機会にチャーター・ナイトを開くべし、という指令がシカゴから来た。このような、いわば締切日が決まったのでジョージも私も若干気がせいた。ぐずぐずしてはいられない、という気持ちでした〉

1957年（昭和32）

8月 東海村原子炉に「原子の火」
10月 ソ連、世界初の人工衛星打ち上げ
10月 角膜移植の「アイバンク」発足
流行語 神武景気

12月 第1回アジア大会開催（フィリピン・マニラ）

彩石川はまず、英文で書かれた会則の翻訳にかかった。この会則の翻訳文は現在濃紺のハードカバーで装丁され、『東京ライオンズクラブ会則』と金箔押しされて保存されている。フィリピン友の会名入りの粗末な便箋に、ブルーブラックのインクで手書きしたもので、119枚の便箋に、彩石川の万年筆の文字がびっしり並んでいる。訳文はやや生硬で、至るところに訂正、追加、削除の跡があり、117枚目には「ライオンズ倶楽部の会則と付則の標準形式1950年8月改訂」と記されている。彩石川はチャーチルの『第二次大戦回顧録』の名訳などでも知られた人だが、いずれ会が出来たら一同で会則に手を入れることになるだろうからと、生硬な文字通りの訳をしたという。

その苦心の様子を見てみると、例えば、「ライオン・テマー」はこう訳されている。

〈(獅子馴し) 獅子馴しはクラブの所有物と諸道具を預かりそれに対して責任を負う。旗、鐘、議長用の槌、会員の番号とニックネームを書いた大型ボタンを常置する盤が、適当に配置されていることに留意する。告示、歌の本、贈物、文書を配付する。会合の時の守衛である。会合は出席した者が然るべき席に着くことに留意する〉

「テール・ツイスター」の訳はこうなっている。

〈(尻尾をひねる者) 尻尾をひねる者は、会合の調和とよき友誼と活気と熱意を維持する。(略) 尻尾をひねる者は、出席会員満場一致の票決によらなければ、罰金をとられることはない。罰金は10^{ポンド}を越してはならず、又如何なる会合でも同一会員が二回以上罰金をとられることはない。尻尾をひねる者が集めた金銭は、全部即座に会計係に渡され領収書を取る〉

1958年（昭和33）

4月 売春防止法施行

12月 東京タワー竣工

ブーム ロカビリーブーム、フラフープ、

ミッチーブーム

6月 302地区日本事務局できる

8月 『ライオン誌』日本語版創刊

（初代編集者彩豊田治助）

10月 第2回アジア大会、東京で開催

初めてこんな英文に出合った彩石川の戸惑いが見えてきそうではないか。そしてその戸惑いを超えて、52年1月には会則翻訳文の印刷が出来上がり、いよいよ会員集めが始まっていく。期限の3月までは2カ月しかない。だが、ほとんどの人はライオンズクラブの名を聞くのが初めてのことであった。勧誘するのも難しく、結局知人関係を中心として会員を集めることとなった。

彩石川によると、「この男は立派な人物だから入れろ」ということで、会員になってもらうと、立派な人物には違いないものの、「あの会社では課長が入っているから、自分のところの専務が入るわけにはいかない」と断られる。あの人は立派な人物だが貧乏で会費が出せないなので自分が肩代わりしようというケースもあった。

彩バレンゴアも走り回った。こちらは英語しか話せないものだから、いきおい引っ張ってくるのは外国人ということになる。しかも調子よく「カムオン、カムオン！」と一気に3人も連れて来る者が出てきたりした。こうして、どうにかこうにか、人数だけは集ま



彩石川欣一（左）と彩バレンゴア

1959年（昭和34）

4月 皇太子ご成婚
9月 伊勢湾台風、東海地方大被害
ブーム 週刊誌続々創刊

5月 第5回地区大会（京都市）でインド救済事業の推進を決議
7月 302地区がE・Wの2地区に分割
7月 彩石川欣一、国際理事に就任（翌月急逝）

ったが、日本人と外国人の割合が3対2ということになってしまった。期限の日が迫る。杉塩原によると、25人ほどの者が集まって、2月が終わり、3月になった。

東京にともったライオニズムの灯

1952年3月5日、東京工業倶楽部で結成式が行われた。杉バレンゴアはその日を東京ライオンの結成の日として国際協会に報告し、それが「公式名簿／オフィシャル・ディレクトリー」上の結成日となった。

その年3月12日、国際協会のエドガー・M・エルバート第一副会長が来日し、いったんフィリピンに向かった。同月20日、エルバート第一副会長はフィリピンからゴンザレス国際理事を伴って羽田空港に到着した。その日、結成されたばかりの東京ライオンは翌日のチャーター・ナイトに備えて、英文の会員名簿を整えた。次の29人の名が記されていた。

吾妻貞勝（銀座屋オーナー）、藤沢伝（一橋大学教授）、古川正重（医学博士）、日比野恒次（電通・常務取締役）、星島二郎（衆議院議員）、井門幸男（大阪貿易株式会社取締役）、今村栄吉（東京マーカントイル株式会社社長）、石田博（三友トレーディング株式会社社長）、石田吉男（日本専売公社販売局長）、石川欣一（フィリピン友の会常任理事）、近藤幹（毎日新聞社秘書課長）、工藤信一郎（毎日新聞社編集局長）、大原久之（川崎製鉄株式会社東京支店長）、岡松成太郎（日本東京商工会議所専務理事）、西郷徳男（中山太陽堂宣伝部長）、塩原有（日興産業株式会社会長）、田辺隆（富士木材貿易株式会社社長）、立上秀二（望星波動科学株式会社社長）、豊川良之助（日本電報通信社）、この19人のほかに次

1960年（昭和35）

6月 新安保条約批准書交換、発効
10月 浅沼社会党委員長刺殺される
11月 史上最大の三池争議解決
世相 安保反対運動広がる
ブーム ダッコちゃんブーム

4月 第6回302-W地区年次大会（広島市）で日本初のバレードが行われる
5月 第6回302-E地区年次大会（新潟市）で「ライオンズの誓い」採択
7月 第43回国際大会で日本ライオンズ、バレードに初参加



左からバレンゴア特別代表、塩原幹事、エルバート第一副会長、ゴンザレス理事、石川会長

の10人の外国人の名があった。

ホセ・B・ボラーノ（フィリピン公使）、ハロルド・N・ボーガー（ボーガー貿易商会社長）、ピート・J・デトロス（インターナショナル・フィデリティー生命保険総代理店）、ソル・ハール（ソーラー貿易社）、ジョージ・クラコワー（フィリピン貿易社社長）、ジョ

1961年（昭和36）

4月 ソ連、初の人間衛星打ち上げ
10月 大鵬・柏戸、横綱同時昇進
流行語 地球は青かった

7月 杉塩原有、302-E地区ガバナーに就任
8月 ガバナー連絡会議発足
10月 国際理事会で青少年交換（YE）計画承認

ージ・B・モーグリズ（ハーシュ貿易社副社長）、ウォーレン・F・プロボスト（アメリカン海外保険会社支配人）、ジョセフ・O・レクター（アメリカックス保険会社副社長）、アレクサンダー・E・シュベッツ（アメリカックス貿易社社長）、ジョセフ・S・サイクス（ノースウエスト航空支店長）。

1952年3月21日、この29人が、ホテルテイト（現・パレスホテル）で行われた東京ライオンズクラブのチャーター・ナイトに臨んだ。会場には、チャーター・メンバーと夫人、それにゲストを含めて50人ばかりの人々が参集した。会の議長役は萩石川が務め、司会は萩塩原が担当した。国際的なクラブだからというので、式の進行はすべて英語で行われ、当日のプログラムも英語で印刷された。



チャーター・ナイトでスピーチをするゴンザレス国際理事

式は開会の辞に続いて、国歌「君が代」の斉唱、牧師による祈祷の後、萩塩原の歓迎の挨拶、萩パレネンゴアの開会に当たっての所感、ゲスト紹介に続いて東京ロータリークラブ代表の祝辞があり、その後、スポンサー・クラブであるマニラを代表してゴンザレス国際理事が挨拶に立った。

1962年（昭和37）

8月 堀江謙一、ヨットで初の単独太平洋横断
8月 初の国産旅客機YS-11、初飛行に成功
ブーム ツイスト流行

4月 第8回各地区年次大会で10月8日を「日本ライオンズ・デー」とすることを決定
4月 日本ライオンズ10周年記念式典（東京都体育館）
5月 アジア救済協会設立
11月 アジア大会を東洋・東南アジア大会に改称

その要旨をめぐる彩塩原の回想。

〈要旨は、フィリピンは今次の大戦によって物質的にも精神的にも測り知れない被害を受け、対日感情は極端に悪い。しかし戦争は終わったのだから、いつまでも憎んでいるのは憎んでいるほうが辛い。過去をして、過去たらしめ、このライオンズの組織を通じて再び日本とフィリピンは手を携えていこう、という趣旨のものであった。(略) 当時はまだ国交は回復せず、日本人は今後半世紀ないし1世紀はフィリピンに渡航出来ないだろうと言われたほどの陰悪な状態であった。そんな時思いもかけない先方から寛容の精神にあふれたスピーチを聞いて私は終生忘れることの出来ない感銘を受けた〉

過去をして過去たらしめよ

スポンサー・クラブを代表したゴンザレス国際理事のスピーチの中にあった〈過去をして過去たらしめよ (Let bygones be bygones)〉という寛容の心に満ちた言葉は、その場に集まった人々の胸に深くしみた。

続いてエドガー・M・エルバート第一副会長からチャーターが贈られ、彩石川がチャーター受領の言葉を述べ、フィリピンから温かい友情の手が差し伸べられたことに感謝し、奉仕への思いを語った後、こう述べて喜びの言葉を結んだ。

〈春分の今日から、春が始まります。肉体的にも精神的にも、みぞれや雪の多かった長い長い冬を我々は過ごしてきました。しかし、本夕ここで、新生の東京ライオンズクラブ祝福のためにお集まりの皆さんの前で、チャーターを受けることによって、国際友好の太

1963年(昭和38)

3月 吉展ちゃん事件起こる

5月 大鵬、史上初の6場所連続優勝

11月 ケネディ大統領暗殺

流行語 巨人・大鵬・卵焼き、わたしはかもめ

4月 日本で初の国際理事会開催(東京・帝国ホテル)

7月 「ライオンズ必携」発刊

7月 彩大原久之、302-E地区ガバナーに就任



東京3rdチャーター・ナイトでフィリピンに贈られた日章旗
(1964年、マニラ3rdのクラブハウスで)

陽が、すでにわれわれを取り巻いて輝きだしたのであります〉

この後、まことに感動的なシーンが用意されていた。彩石川の回想。

〈式の行事の一つに、日本とフィリピンの国旗の交換があり、マニラからわざわざやって来た国際理事ゴンザレス氏が、東京の会長である私に、三尺に五尺という大きなフィリピン国旗を手渡し、私も三尺に五尺の日章旗をゴンザレス氏に渡しました。戦後、国旗の交換はいろいろ行われたでしょうが、相手がフィリピンであるだけに、この大きな旗を受け取って胸に抱いた私は、涙が出そうになって

困りました〉

戦争が終わって6年余、対日平和条約の発効まで後1カ月という時期であった。日本はようやく国際社会に復帰しようとしていた。東京3rdの発足は、まさにその先陣を切るものでもあった。参会者の思いを伝えて彩石川はこう語っている。

〈胸が熱くなり、涙がとめどもなく流れ、それが鼻に入って困りました。私ばかりでな

1964年（昭和39）

6月 新潟地震

10月 東海道新幹線開業

10月 東京オリンピック開催

流行語 ウルトラC、シェー

5月 全クラブ合同でパラリンピックに協力金940万円を贈る

7月 彩迫水久常、302E-1地区ガバナーに就任

9月 第3回東洋・東南アジア大会を京都市で開催

10月 全クラブ合同で東京オリンピックに協力（移動式トイレットカー2台、国旗掲揚ポール110本）

く、あちこちから鼻汁をすすする音が聞こえていました」

35番目のライオンズ大国として発足

この日、東京²にともったライオニズムの灯の流れをたどると、源流はアメリカのカリフォルニア州ロサンゼルス³にたどりつく。このクラブは元シルゴニアン・クラブといい、1917年6月7日、メルビン・ジョンズの呼び掛けで行われたシカゴの会合に出席した27クラブの一つである。その年10月8日、ライオンズクラブの第1回大会が開かれたが、このクラブは出席しなかったため、認証されなかった。メルビン・ジョンズは重ねて参加を呼び掛け、同クラブもこれに応じて、1918年9月に認証されロサンゼルス⁴となる。このクラブが3番目にスポンサーをしたクラブが同じカリフォルニア州のロングビーチ⁵であった。ロングビーチ⁶によってハワイ初のホノルル⁷が組織され、ハワイの50地区がスポンサーとなってマニラ⁸を組織している。そのマニラ⁹が東京にライオニズムの灯をともし、9218番目のライオンズクラブが誕生したわけである。

『ライオン誌』国際協会版52年4月号は、東京¹⁰の誕生というライオニズムのアジアでの新しい展開を次のように伝えた。

「日本、ライオンズ国際協会35番目の大国に／3月5日、東京でライオンズクラブが結成されたことによって、日本は奉仕する人々の世界的な集まりであるライオンズ国際協会に加盟する、第35番目の大国となった。(略) この新しいクラブの誕生は、ライオニズムがその奥深く秘めている可能性と有用性、有益性を多くの人々に示し、力づける例証であ

1965年（昭和40）

6月 日韓基本条約調印

7月 名神高速道路全線開通

10月 朝永振一郎東京教育大学教授、ノーベル物理学
賞受賞

10月 南海・野村克也、プロ野球戦後初の三冠王

ブーム アイビー族

2月 スズラン給食

11月 第4回東洋・東南アジア大会で10月8日を「ラ
イオンズ・デー」とすることを決議

る。わずか6年前、フィリピンと日本は交戦中であった。それも冷戦とか、舌戦とかいったものでなく、いうにいわれない悲惨と苦痛と死を伴う激しい全面破壊戦争であった。フィリピンのライオニズムは、この3月、創立3周年を迎え、国内には51のクラブが盛んに活動している。その誕生の記念として、東京にライオンズクラブが結成されたわけである。(略)日本の皆さん、我が偉大なる善意の人々の協会へようこそ。フィリピン・ライオンズの皆さんおめでとう

日本の国連加盟に先立つこと4年、東京での誕生で日本の人々は、晴れて国際社会の一員として歩き始めたのである。

東京での企画ラジオ番組『書斎から』の放送

東京では、この後で見るように例会の運営に苦勞することになるのだが、そんな状況の中でも行動を起こし、ライオンズクラブの名を全国に広めていった。石川の遺稿を基にその軌跡をたどってみよう。

東京が発足した52年の夏、サンフランシスコに本部のある米国の民間団体アジア財団の日本支部が開設され、石川はその顧問として迎えられた。アジア財団は米国に本部があるだけにライオンズクラブのことをよく知っていて、ぜひ健全な発達をしてもらいたいということで、石川に、何かプランがあれば金銭的な援助の用意がある、と申し出てきた。アジア財団は広い意味での教育を目的とした団体であったから、石川はこの申し出を役立てて、ライオンズクラブのPRと地方文化のラジオによる向上を目的にした放送を

1966年(昭和41)

2月 全日空機、羽田沖に墜落

3月 カナダ航空機衝突炎上事故

3月 BOAC機、富士山付近で空中分解、墜落

5月 中国で文化大革命始まる

6月 ザ・ビートルズ、日本武道館で公演

11月 全日空機、松山沖に墜落

流行語 黒い霧

4月 国際理事会、1969年の国際大会開催地を東京に決定

しようと考えた。アジア財団もこのプランに賛同し、番組制作費を援助しようということになった。

折から、民間放送は開設のピークを迎え、任意団体の民間放送連盟も、本格的なスタートを切っていた。彩石川は、この民間放送連盟と連絡をとって企画の趣旨を伝え、15分のラジオ番組が制作されることとなった。東京では、ライオンズクラブが発足したのと同じ3月に開局する日本文化放送協会（現・文化放送）をキーステーションにすることに決まり、番組の制作はNABプロダクションが奉仕価格で引き受けることになった。

当時、日本の民間放送は、まだ全国でわずかに9局を数えるにすぎなかった。広告主も海のものとも山のものともつかぬ電波媒体にあまり乗り気ではなく、スポンサーのつかない時間が多かった。そんな時間は放送局が自主制作番組を企画・制作して放送していた。アジア財団からの援助額も、放送時間を提供できるほどの金額ではなかったため、日本文化放送協会側も奉仕の意味で時間を提供し、



東京渋谷区結成式で彩石川欣一のライオンズ・ローア

1967年（昭和42）

4月 東京に革新知事（美濃部亮吉）誕生

10月 羽田学生デモ

ブーム ミニスカート大流行、グループサウンズ人気

1月 インド救済センター落成

彩石川も無報酬で出演することとし、三方ともに奉仕するという、まことにライオンズクラブらしい放送体制が形づくられた。

52年3月31日、月曜日、日本文化放送協会が開局する。その日午後6時5分、『書斎か

「うれしいニュース」

東京初代会長彩石川欣一により日本文化放送協会から放送された「ライオンズクラブ誕生の経緯」全文

日本文化放送協会で、初めて放送するのですから、きょうはうれしいニュースをお話しましょう。それは、ちょっとした行き違いから、新聞にも発表されなかったもので、ほんとうのラジオによるニュースということになります。ほかでもない、国際ライオンズクラブ——ライオンズは「百獣の王」といわれる獅子ですが、その名を取ったクラブの支部が東京にできたお話です。しかもそれがどんなぐあいにしてでき、国際的にどんな反響を生んだか、今晚はそれについてお話いたします。

世界中にクラブの数がいくつありますか、私は存じません。恐らく何千何万とあることでしょう。現に私自身が、日本山岳会、日本パイプ倶楽部、チャーチル会、東京スポーツマン倶楽部、アルビオンクラブ、日本ベンクラブ、それから新しくできたライオンズクラブと、7つのクラブに関係しています。まだほかに忘れてのものもあるかもしれません。1855年に出版された『ロンドンのクラブ生活』という本には、70いくつのクラブがあげてあります。ざっと百年前のことですから、その後なくなったクラブも、新しくできたクラブもあることでしょう。

このようなクラブの目的はそれぞれ違いますが、特にアメリカには、サービスクラブと呼ばれるものがあります。なかでも古くて有名なのが、日本にも会員のあるロータリークラブ。比較的新しくて会員が多く、盛んに活動しているライオンズクラブ。目的はいずれも一言でいえば、社会のために奉仕し、国際間の親善関係をよくしようというのにあります。ライオンズはさき程獅子と申しましたが、英語の綴りのLはリバティ即ち「自由」、Iはインテリジェンス即ち「知性」、次のOはアワー即ち「我等の」、Nはネイションズ即ち「国家の」、そして最後のSはセーフティ即ち「安全」をそれぞれ意味するので、自由と知性とそれぞれの国家の安全をめざして、時間と努力と、金のある人は財産を奉仕しようというのであります。

国際ライオンズクラブは1917年、シカゴに生まれました。そのときはアメリカだけのクラブが約50ありましたが、3年間に加盟支部が2倍になってカナダにひろがり、更に4年後にはクラブの数が761、会員は3万6943名になりました。現在ライオンズクラブのある国は35カ国、クラブ総数9218、会員数は約43万5000名に達しています。日本は35番目の国で、東京ライオンズクラブは9218番目のクラブ、9217番目はベルギーのアントワープ、その一つ前はドイツのデュッセルドルフであります。(注=国際協会の公式名簿によれば、ベルギーは日本のあと1952年3月31日ブリュッセルにクラブ誕生)

私が今晚特にお話したいのは、東京ライオンズクラブがどうしてできたか、ということであります。しきたりとして、ライオンズクラブのあるひとつの地域——ディストリクトと申します——このディストリクトが、ほかのディストリクトのスポンサーになるのです。日本でも商業放送ができて以来、スポンサーと申すと、時間を買って、あるプログラムを提供する広告主を考えます。それはもちろんそのとおりですが、本来の意味は名づけ親、保証人、発起人、後援者であります。4年前にできたマニラのライオンズクラブのスポンサーは、ハワイでありました。その4年後に、フィリピンがスポンサーになって、東京にクラブができたのであります。

最初、マニラからこの話があったとき、実は私、意外に思ったのであります。新聞などでご承知のとおり、フィリピンの日本に対する感情はきわめてよくないのです。よくないどころか、悪いのであります。すでに他の国々——かつてわが国の敵だった国々が、過去は過去として、日本を世界国家の家族の一員として迎え入れ、ないしは入れようとしているのに、フィリピン人はいまだに日本人を信用せず、日本を憎んでいる。ユネスコ加入問題のときなども、40何カ国の賛成に対して、フィリピンだけが不賛成を唱えました。

ら』と題した15分番組が初めて電波に乗った。この初放送は「うれしいニュース」という副題が付けられ、東京の誕生の経緯が詳細に語られた。この番組はその後ネット局を増やし、56年からは、「東京ライオンズクラブ企画」を「ライオンズクラブ企画」と変えて

私は過去の古傷に触れたくありませんが、事実われわれ日本人はフィリピン人からきられても憎まれても、やむを得ないのであります。太平洋戦争の情勢が逆転し、フィリピンの日本軍がどたんばに追いつめられたとき、考えてもゾッとするような残虐行為が行われたのであります。いや、その前にも、憲兵隊といえ、フィリピン人は身ぶるいしたものです。いまでも「ケンベタイ」ということばは、フィリピンでは最も憎むべきものとして残っています。

ところがこのフィリピンから国際ライオンズクラブに入らないかという申し出があり、長いお話は略しますが、この案を本部の理事会にかけて本部役員の賛成を受けたのが、ある有名なフィリピン人であることを知って、かねがね「フィリピン友の会」で、何とかしてわれわれの慚愧の思いを伝え、戦争前の友好関係を取り戻したいと願っていたわれわれは、実に感激したのであります。そして3月21日、とうとうデイト・ホテルで発会式をあげることになりました。その式の行事のひとつに、日本とフィリピンの国旗の交換があり、マニラからわざわざやって来た国際理事ディンド・ゴンザレス氏が、東京の会長である私に、三尺に五尺という大きなフィリピン国旗を手渡し、私も三尺に五尺の日章旗をゴンザレス氏に渡しました。戦後、国旗の交換はいろいろ行われたでしょうが、相手がフィリピンであるだけに、この大きな旗を受け取って胸に抱いた私は、涙が出そうになって困りました。

「東京クラブができた」というので、本部のシカゴはもちろんのこと、フロリダ州マイアミ、ロスアンゼルス、コロラドのある町など米国は申すに及ばず、マニラ、遠くは南米のチリ、エクアドルから祝いのことばが届きました。まだ方々から来ています。米国各地のライオンズクラブからは、お祝いの品も来ました。そのなかで一番興味深いのは、インディアナ州のライジング・サンという町のクラブが送ってくれた、会長用のゲーベル、すなわち議事進行用に机をたたき、木のつちであります。それには銀の環がはめてあって、「ライジング・サンの国の最初のライオンズクラブのために、米国インディアナ州の町、ライジング・サンのライオンズクラブから」と彫ってあります。

ライジング・サンは申すまでもなく朝日。日本のシンボルであり、同時に日章旗を意味します。現に有名なハーバードの歴史の教授で、太平洋戦争中は、海軍の戦史を書くため、ルーズベルト大統領によって海軍大佐に任命されたサミュエル・エリオット・モリソン氏の「第二次世界大戦における米国海軍の作戦史」14巻の第3巻は、1931年から1942年即ち昭和17年4月までを扱ったものですが、その題は「ライジング・サン・イン・ザ・パシフィック」つまり「太平洋における日章旗」であります。大戦前からその後まで、ライジング・サンはヒトラーのスワスチカ、あのマンジとともに、超国家主義、軍国主義、好戦論、残虐のシンボルだったのであります。インディアナ州のライジング・サンの人々は、さだめし肩身が狭かったことでしょう。ところが7年後の今日、名前がライジング・サンであることを喜んで、わざわざ議長が机をたたきつちに、さっき申した言葉を刻んで送ってくる……これまた、まことに感慨無量であります。

東京クラブの発会式のために、シカゴから来られた国際ライオンズの会長、エルバート氏も、発会式のあいさつで「もし自分がいまから7年前、1952年に東京に行くといったら、頭が変だと人にいわれたことだろう。ところがどうだ、われわれは本夕、ここに心からの友人として集まっているではないか」と述べました。このエルバート氏がまた、日本に支部を置くことを、熱心に提唱されたひとりであります。

そこで申したいのは、このお話でもおわかりのとおり、世界が日本をこれほどの好意と信頼で見ていることです。やれ四等国だ、八等国だ、いっそ米国の領土になったほうがいいなどと、つまらなく卑下したバカなことを考えるのは、もうやめようではありませんか。終戦後いまだに、私は何度かいいましたが、世界一の優秀な民族だなどとうぬぼれるのはもちろん間違っていますが、われわれ日本人には本質的に美しいもの、いいものが、いくらでもあるのです。そしてそれを、世界に貢献することができるのです。私は日本文化放送協会の発足によって、この考えを皆さんにお伝えできる機会が、もうひとつふえたことを、たいへんうれしく思います。

(1952年3月31日午後6時5分～6時20分)

放送された。ネット局数も一時は20局を超え、彩石川が日本人初の国際理事に就任した59年5月まで週1回、およそ7年余にわたって放送された。

一方、同じ日本文化放送から、彩立上秀二による『この世を明るく』（30分番組）という番組も放送されて、ライオンズの名が広がっていった。

欠席者続出英語だらけの例会

東京では、チャーター・ナイトの後、3月中に入会した人を特にチャーター・メンバーとして扱うという特例を設けて会員を増やし、総数は56人となったが、やはり外国人が多く、20人が外国人であった。初代の会長に彩石川、幹事には彩塩原が選ばれてスタートが切られたが、会員に外国人の多いことがクラブ運営の上での大きな障害になった。彩塩原の証言。

「ミーティングを開いても半数近い外人メンバーを無視するわけにいかず、勢い英語を使うことが多かったので、日本人メンバーは一部の者を除いて非常に億劫がった。一方、ゲスト・スピーカーの話を一々通訳しては時間ばかり掛かるので、これは日本語で済ませると、外人メンバーはさっぱり分からない。また、外人メンバーは奉仕クラブということと比較的良く知っているので、クラブが出来たらすぐアクティビティをやるものと思っていた。我々としては、会が発足したばかりなので、会の基礎が出来るまで我慢をして、徐々にアクティビティをやる方針であったので、彼らとの間に、考え方に食い違いがあった。そんなことで、例会をやってもだんだん出席者が少なくなり、ある時はわずか出席者

1968年（昭和43）

2月 金婚老事件

8月 札幌医大で日本初の心臓移植手術行われる

12月 三億円事件

世相 大学紛争相つづ

流行語 昭和元禄

6月 ライオンズ国際財団（LIF）設立

6月 日本初のレオクラブ、高知レオ誕生



1952年8月27日の例会はロバート・D・マーフィー米駐日大使をゲスト・スピーカーに迎えて

5名という例会のこともあった〉

東京の事務所は、初め、彩今村栄吉が経営していた東京マーカンタイル株式会社（中央区築地3-8 建設工業会館5階）内に置かれていた。52年5月、その事務所から、石川会長名で例会への出席を促すこんな手紙が、会員あてに発送された。

〈(略) 我が東京ライオンズ倶楽部も実質的に組織を整え活動に入るべきなのですが、そ

1969年（昭和44）

1月 東大に機動隊が導入され安田講堂封鎖解除
5月 東名高速道路全線開通
7月 アポロ11号、月面着陸
世相 ベ平連、ヒッピー

7月 日本で初めての国際大会、東京で開催
10月 那覇市に沖縄救急ライのスキン・クリニックを建設、医療器具を贈る

れにしては、例会への出席率があまりよくありません。どなたもお忙しいことはよく判って居りますので、会合の場所も足場のよい所にし、月2回のことから、失礼ながら食事費もできるだけ安く済ませるようにして居りますが、それでも発会以来一度も出席されぬ会員が相当に多いのであります>



1952年8月15日、初めてのエクステンションとなる横浜32チャーター・ナイト

1970年（昭和45）

3月 アジア初の日本万国博覧会開幕

3月 「よど号」事件

11月 三島由紀夫割腹自殺

流行語 ウーマンリブ

1月 日本万国博覧会に協力、「身体障害者センター」竣工

6月 札幌オリンピックの選手強化施設、「日本ライオンズ青年の家」完成

7月 世界ライオンズ奉仕デーが10月8日と決まる

7月 彩上田常隆、302E-1地区ガバナーに就任

7月 彩迫水久常、国際理事に就任

8月 第9回東洋・東南アジア大会を名古屋市で開催

出席を促すこの手紙は、このままでは役員も選べないし、例会を魅力あるものにしたいが意見も聞けない、夜の例会が都合いいのであれば、1回はそうしてもいいが、それについても意見を聞きたい、と述べてこう結んでいた。

〈最後に細かいことになりますが、会場代を取られる場合、出席が少ないと一人当たりの負担が当然多くなります。この事実も御考慮下され、繰り返して多数の御出席を願う次第であります〉

例会は、初め丸の内にあった商工会議所の地階食堂で行われ、その後東京駅前の工業倶楽部に移り、7月末から日比谷の日活国際ホテルに変わった。依然、出席者は少なかった。

クラブ運営軌道に乗る

東京37の事務所は、52年6月末から、フィリピン友の会の事務所に転居と決まり、机を一つ置いて寄寓することとなった。2年ほどをそこで過ごした。彩井門幸男によると、〈日活の地下で5人の例会をやったのは、確か2年目のことでした。会費で事務員の給料が払えないものですから、私は毎月いくらか立て替えて、後で清算してもらっていた〉という状態が続いた。53年3月には会員数も過去最低の37人となる。7月から1年間の出席率は平均48%にとどまり、52年末までにチャーター・ナイトの名簿に名を連ねた29人のうち、3人の日本人と4人の外国人が退会した。翌53年にはさらに4人の外国人と1人の日本人会員が辞めていった。54年にはさらに4人が去り、2人が急逝し、結局最後まで残ったのは10人となった。

1971年（昭和46）

6月 沖縄返還協定調印

7月 東亜国内航空機墜落事故

7月 粟石上空で自衛隊機、全日空機と衝突

8月 ニクソン米大統領、ドル防衛策を発表（ドル・ショック）

ブーム ボウリングブーム

3月 第1回アイバンク運動全国大会開催（静岡県沼津市）

8月 ボーイスカウト第13回世界ジャンボリー（静岡県富士宮市）に合同アクティビティ実施

一方、後に東京新橋²⁷に転籍した²⁸西郷徳男によると、52年9月13日付で大原久之の会員委員長名で、日本人主体のクラブにしようという、次のような会員増強促進の依頼状が各会員あてに発送された。当時、東京²⁹の会員数は54人であった。

〈会員委員会は、会員増加のため会員100名を目標として各位が必ず1人をクラブに紹介することという方針を定めました。依ってこの目標に向かい各位の御協力を願ひ上げます。但し外人会員（現在19名）は全体の四分の一以内ということに大体決めましたことを御考慮の上御尽力を願ひ上げます。尚良き会員たるべき人を例会にお連れ下さるようお勧め申し上げます〉



1953年7月15日、大阪³⁰チャーター・ナイトで進藤竹次郎会長に認証状を伝達する石川ガバナー（左）

「良き会員」を増やし何とかクラブの運営を軌道に乗せたいという思いが伝わってくるような文面だが、例会ではメンバー・スピーチと共に、ゲスト・スピーカーにも配慮して、例会を魅力あるものにしようという努力が続いた。例えば、発足2年目のゲスト・スピー

1972年（昭和47）

1月 グアムのジャングルで横井庄一元軍曹発見
2月 札幌オリンピック開催
2月 浅間山荘事件
5月 沖縄の施政権返還、沖縄県発足
9月 田中首相訪中、日中国交正常化合意
ブーム パンダブーム
流行語 恥ずかしながら、総括

3月 国際理事会、東京・帝国ホテルで開催
3月 日本ライオンズ、人道主義大賞受賞
6月 第18回302E、302W両複合地区大会を東京で開催。日本ライオンズ創立記念日を3月15日（東京³¹認証日）と決定。1978年の国際大会の東京招致を決議
6月 日本ライオンズ20周年記念大会開催（東京・日本武道館）

カーを拾うと、53年10月には来日中のフランスの指揮者ジャン・マルチノン（フランスのライオンズ）を迎え、11月にはカナダ・カルガリーのB・ライデン氏を迎えてカナダ映画を上映し、その年からクリスマス家族会も始めた。

54年になると、1月と2月にそれぞれ毎日新聞と朝日新聞のベテラン記者を招いて世界情勢の話聞き、同じ2月、銀座7丁目のバー「クール」のバーテンダー古川緑郎氏が銀座裏表を語り、4月、モンロー・L・ヌート国際会長夫妻、5月は「テレビについて」と題して、前年の8月から放送を始めた日本テレビの福井



例会風景

1973年（昭和48）

8月 金大中事件
10月 巨人V9達成
10月 江崎玲於奈博士、ノーベル物理学賞受賞
10月 石油ショック
ブーム 超能力ブーム

6月 沖縄の本土復帰を記念して、コザ市に「ライオンズ広場じゃぶじゃぶ池」を建設
6月 杉上田常隆、国際理事に就任
10月 会員数10万人に達する

近夫氏の話聞いた。7月は東京芸大の颯田琴次教授、8月、石炭鉱業連盟・早川勝専務理事の「石炭鉱業と労働問題」と続く。折からエネルギー革命が話題となり、前年は三井鉱山での長期ストが問題になっていたころのことであった。

例会場は、54年10月からホテル国際観光に移り、ゲスト・スピーカーも写真家の木村伊兵衛氏、画家の中村研一氏、朝日新聞論説委員・土屋清氏、塩の権威で東大教授の杉二郎氏など多彩になっていく。56年3月、会員数は念願の100人を超え102人となった。

アクティビティ事始め

アクティビティにもようやく目が向けられていく。東京でのアクティビティは、彩石川のラジオ放送を除けば、53年10月、共同募金に寄付した1万円が最初のアクティビティであった。これは、2回の例会で集められたもので、『ニッポン・タイムズ』紙を通じて寄付された。都市銀行の大卒初任給が5600円というころの1万円であった。この年は神戸が3万円を肢体不自由児の活動に寄付しており、この2つが日本のライオンズクラブの初のアクティビティとなった。

2年目の53年6月末、熊本を中心に襲った豪雨禍の被災者見舞金として2万円が贈られた。3年目になると、アクティビティの金額も9万円となる。そのうち5万円は日本初の全クラブ合同のアクティビティに寄せたもので、全国10クラブから30万円が集められ、フィリピン・ミンダナオ島の地震被災者に衣料品が贈られた。

このころになると日本人のメンバーの数もようやく増えて、委員会もそれまでの出席、

1974年（昭和49）

3月 ルバング島から小野田寛郎元陸軍少尉帰還

8月 三菱重工本社爆破事件

10月 ミスターG、長嶋引退

世相 狂乱物価

3月 バンフ国際理事会で1978年の第61回国際大会開催地が東京に決定

毎日新聞昭和30年10月9日(日)

東京L.C. 日比谷公会堂に
音楽会と開催、施設に
アクティビティする。



日比谷公会堂で「笑いとマンボの会」を開催、集まった資金で教護施設にテレビを贈った（『毎日新聞』1955年10月9日）

財務、会員、プログラム、会則、情報、少年少女、教育の8委員会に加えて、国際、事業、厚生、安全、都政改善、放送、会報の7委員会がスタートする。

55年7月20日、少年少女委員会の企画で「子供の心と肉体の糧のために・笑いとマンボの会」が日比谷公会堂で開催され、満員の盛況となった。収益金のうち14万9000円で小山

1975年（昭和50）

- | | |
|------------------|---|
| 4月 ベトナム戦争終結 | 7月 沖縄海洋博覧会に車イス100台贈呈、会期中、地元会員がヘルパーとして奉仕 |
| 5月 エリザベス女王夫妻来日 | 10月 国際理事会でライオネスクラブの創設を決定 |
| 7月 沖縄海洋博開幕 | 11月 東洋・東南アジア大会を東洋・東南アジア・フォーラムに改称 |
| 9月 天皇・皇后両陛下、初の訪米 | |
| 世相 使い捨てライター登場 | |

児童学園と誠明学園に、まだまだ高価なものだったテレビが贈られ、5万860円が子供向け図書購入費として東京都の青少年教育課に贈られた。企画・準備から会場設営、運営まで、メンバーが汗を流した初のアクティビティでもあった。

リッチランドからの緊急便

クラブとしての体制も整った56年夏、思いもよらぬ緊急の連絡が海の向こうから飛び込んできた。米国ワシントン州リッチランド²⁷からの緊急の連絡であった。

当時、東京²⁸の事務所は転々と場所を変えていた。フィリピン友の会の事務所には約2年ほど寄寓し、54年8月1日からは、旧日活国際会館に診療所のあった²⁹古川正重の千代田クリニックの待合室に仮寓、2カ月後には当時の会長であった³⁰高橋貞太郎の日本橋西川ビルの事務所に移った。さらに、55年8月になると、³¹福田太郎の東銀座事務所にまたまた移転、机一つの寄寓暮らしが続いていた。

56年1月からは、³²福岡陽道の在職する国際観光会館内の丸紅飯田の一室に移り、7月24日、³³永野護の斡旋でようやく安住の場所を見つけ、日比谷通りの堀端に面した岸本ビル4階に約30㎡の一室を確保した。リッチランドからの緊急連絡はその岸本ビルの一室に届けられた。

リッチランドからの連絡は、日本の東北地方・青森市の一人の青年を失明の危機から救いたいというもので、その手術費用として150³⁴が添えられ、これを青森の青年に送ってほしいというものであった。リッチランドからの連絡は次のようなものであった。

1976年（昭和51）

1月 鹿児島で五つ子誕生

7月 ロッキード事件で田中角栄前首相逮捕

流行語 記憶にございません

流行歌 「およげ！たいやきくん」

6月 8 複合地区、24準地区に再編成

当時、青森市のバプテスト教会の信徒に市川仁也君という20歳の青年がいた。彼は網膜剥離症で失明寸前の危機にあった。手術には5万円かかるが、その金額を用立てる当てがなかった。青森では大卒初任給が1万円といころの金額である。教会のハルバーソン牧師は市川青年の危機を救おうと、彼の故郷であるリッチランドの母に信徒の危難を救えぬものかと訴えた。その話が、牧師の叔父であるハックルベリー氏に伝えられた。ハックルベリー氏はリッチランドのメンバーであった。愛に国境はない。リッチランドは直ちに役員会を開いて支援を決め、ハルバーソン牧師に承



青森バプテスト教会

1977年（昭和52）

8月 有珠山爆発

9月 巨人・王貞治、通算756号ホームラン、世界新記録。国民栄誉賞第1号に

ブーム カラオケブーム

5月 日本ライオンズ25周年記念全国大会開催（大阪・フェスティバルホール）

8月 有珠山爆発に全国24準地区から総額4000万円余が贈られる

10月 第16回東洋・東南アジア・フォーラム、福岡市で開催

諾の電報を打った。

東北地方にはまだライオンズクラブはなかった。リッチランド²は、日本に初めてできた東京³にその手術費用を託し、青森に送ってほしいと言ってきたのである。

緊急の理事会が開かれた。海外のクラブの奉仕活動をどのように受け入れればよいのか。全く初めての経験である。手術を受けるのは日本の青年であり、それを支援しようというのがアメリカのクラブである。理事会の決断は素早かった。青森の青年の手術費用は東京³で負担することとした。リッチランド²からの送金は、その善意を永久に記念して《リッチランド・アイ・オペレーション基金》と名付け、将来にわたる視力保護活動に役立て

ることとなった。リッチランド²もまた、この決定を喜んで了承してくれた。国は違っても理念は一つ、変わりはない。

市川青年は東京³が贈った手術費用で青森県立病院に入院し、2ヵ月後の10月12日、視力を回復して退院した。海を越えたこの愛のリレー作戦はマスコミでも大きく取り上げられて話題となった。これがきっかけとなって、同じ56年12月12日、東京³のスポンサーによって、青森⁴が結成されることにもなった。



東京³例会会場入口に置かれたリッチランドの壺

1978年（昭和53）

- 1月 伊豆大島沖地震
- 5月 新東京国際空港開港
- 6月 宮城県沖地震

流行語 窓際族、不確実性の時代

- 6月 国際理事会、東京・帝国ホテルで開催
- 6月 第61回国際大会、東京で開催。村上薫（福岡舞鶴⁵）、国際第三副会長に当選
- 10月 第14回全国身体障害者スポーツ大会に会員1人当たり100円を協賛、全地区共同事業として始まる



1957年5月11～12日、第3回302地区年次大会が東京で開催された。写真左・高橋貞太郎地区ガバナー（帝国ホテル屋上での記念アクティビティ贈呈式）

東京都内に広がるライオニズム

青森[㊦]は、東京[㊦]がエクステンションした5番目のクラブであった。横浜、神戸、札幌、函館に次ぐエクステンションであった。青森[㊦]が発足した翌年の57年、東京[㊦]は仙台[㊦]と

1979年（昭和54）

- 1月 三菱銀行北畠支店で猟銃人質殺人事件
- 3月 米スリーマイル島原子力発電所で大量の放射能漏れ事故
- 6月 東京サミット開催
- ブーム インベーダーゲーム

甲府²のスポンサーとなったほか、東京都内に東京新橋、東京渋谷、東京日本橋の3クラブを結成させて、発足5年で10クラブをエクステンションする結果となった。例会の出席率の悪さに悩んでいたころでは考えられないような活躍ぶりであった。

東京都内に4クラブが出来たその年から4クラブ合同の奉仕活動が始まっていく。57年



1957年12月25日、東京、東京新橋、東京渋谷、東京日本橋、4クラブ合同クリスマス会

1980年（昭和55）

4月 東京・銀座で自動車運転手、1億円拾う

6月 初の衆参同日選挙

ブーム 漫オブーム、百恵引退フィーバー

7月 ライオンズ国際財団（LIF）の名称、ライオンズ
クラブ国際財団（LCIF）に変更

5月、豊島区母子寮の子供慰安会が豊島公会堂で開かれ、それに4クラブ合同で1500人の子供たちにお菓子を贈ったのを手始めに、その年は6件の奉仕活動が合同で実施された。58年も7月までに10件の合同アクティビティが行われた。58年に東京芝のサポーターとな



1958年10月、東京で第2回アジア大会が開催される。あいさつをする永野護運輸大臣（元会長）

ってからは、このクラブも加えた合同の活動が展開されていく。

58年10月、ミニ国際大会ともいえる第2回アジア大会が東京会館・帝国ホテルを会場にして開かれた。大会準備委員会は東京芝をはじめとする5クラブで組織され、日本のライオンズとしては初めての国際大会に臨んで、見事、大会を成功に導いた。

越えて59年1月、合同アクティビティとして、ブラジルで保育園を開いている宮本純子さんという女性に、当時はまだ珍しかったテープレコーダーが贈られた。宮本さんは戦後ブラジルに渡り、日本移民の子供たちの保育に心を砕いていたもので、その年に一時帰国し、「リーダーズダイジェスト」社を訪れて、日本からの支援を訴えた。このことが、メ

1981年（昭和56）

3月 中国残留日本人孤児47人初来日

4月 米、スペースシャトル・コロンビア打ち上げ成功

流行語 ハチの一刺し

書籍 「窓ぎわのトットちゃん」

6月 第64回国際大会で村上薫（福岡舞鶴）、東洋初の国際会長に就任

10月 国際理事会、京都で開催

10月 日本ライオンズ30周年記念全国大会開催（東京・日本武道館）

12月 財団法人アジア救済協会解散

ンバーから東京²²に伝えられ、ソニー製の録音機が贈られることとなった。この録音機は宮本さんと共にブラジルの奥地を駆け回り、現地の子供たちの教育に役立てられた。

インド救ライを推進させる

59年はまた全国的なアクティビティの萌芽となる出会いが生まれた年でもあった。57年3月に大阪²³から転入した²⁴豊田治助は、当時、国際文化会館の総主事をしていた。59年4月、東京で日本医学会総会が開催され、和歌山県立医大の木村潔博士が同会館に宿泊していた。²⁵豊田は、先輩に当たる木村博士とたまたま食事を共にする機会があり、よもや



インド救ライ運動の立て役者たち。左から那須インド大使、宮崎松記博士、²⁶豊田治助

ま話をしているうちに、アジアの救ライに余生を捧げたいと望んでいる宮崎松記博士のことが出た。²⁷豊田はライオンズが手助けできることはないものかと尋ねた。その翌日、岡山²⁸の原勝巳カウンセラー、さらにその翌日には那須インド大使がこの会館に姿を見せ

1982年（昭和57）

2月 東京のホテル・ニュージャパン火災

6月 東北新幹線開業

11月 上越新幹線、大宮―新潟間開業

流行語 ネアカ・ネクラ

7月 第65回国際大会で元横綱・大鵬親方に人道主義大賞が贈られる

11月 村上薫直前国際会長（福岡舞鶴²⁹）死去

て、歴史的な奉仕活動となったインド救ライの動きへと展開していく。

彩豊田らの奔走によって、宮崎博士をインドへ派遣する話は急速に進み、その年5月の第5回302地区年次大会で「インド救ライ募金」が可決され、年末、宮崎博士がインドへ向かった。

翌60年、東京㊦は那須大使を招いてインドの事情を聞き、例会でも宮崎博士の活動を告げる映画を上映し



インド救ライの街頭募金に立つ彩上田常隆

て、この問題への理解を深めた。ところが、全日本のライオンズの善意を結集した「インド救ライ募金」ではあったが、61年後半には資金が底をつく状況に陥っていた。

まず東京㊦が動いた。毎日新聞社の後援を得て、那須前大使の講演を主とした「インド救ライの夕べ」を開くと共に、再び全国に呼び掛けた。当時、302地区はE・W 2 地区に分割されていたが、彩高橋貞太郎らの積極的な働きかけでガバナー合同会議が開かれ、インド救ライ募金協力が決議された。また、ほぼ同時にマスコミがキャンペーンを展開し、インド救ライ事業は大きく前へ進み出す。この画期的な全国統一アクティビティの先頭には、常に東京㊦の姿があったのである。

1983年（昭和58）

4月 東京ディズニーランド開園
9月 ソ連領内で大韓航空機撃墜される
10月 東京地裁、ロッキード事件で田中前首相に実刑判決
ブーム おしんブーム

久慈火災、日本海中部地震、山陰水害、三宅島噴火など大きな災害が相次いで起こり、全クラブ合同で義援金を贈る

若者たちを支えた奨学資金始まる

60年3月には、長い奉仕活動となる奨学金制度がスタートした。この奨学金は、東京都内に住む生徒で、成績が優秀なのに経済的理由で高校進学が難しい者の中から3人の若者を選んで贈られ、1人月額2000円が支給された。62年から支給額は年間3万円となり、65年からは奨学生の枠も4人となった。さらに72年には年間4万2000円の支給となり、75年には物価の高騰に伴い支給額も年6万円となる。さらに77年には8万円、79年12万円と増額され、80年代末には年間総額200万円に迫る額になった。74年当時寄せられた礼状の一節。



「インド救ライの夕べ」であいさつに立つ岡村武会長

く(略) 広い東京で星の数のごとき学生の中から推薦され、奨学金をいただき、青春を謳歌し、広く知識を得られた喜びと誇りを胸いっぱい、明日への希望に燃えています。東京ライオンズの集いの日には、必ず参加させていただきましたが、次代の若人のためにお力

1984年（昭和59）

3月 グリコ・森永事件発生
11月 新一万円札・五千円札・千円札発行
世相 「ロス疑惑」に大反響
流行語 マルキン・マルビ

9月 第23回東洋・東南アジア・フォーラム、札幌市で開催

を貸して下さる姿に、心の安らぎを覚え、明日への勇気に沸き立つ思いで、お話し合いを致しました。今後のライオンズクラブの御発展を祈り上げ、ライオンズクラブの一つの星として、ためまぬ努力を続けていきたいと思ひます」

音楽で和む例会

毎月の例会に音楽という特別の華やぎが加わるようになったのも60年代に入ってからのものであった。59年の第5回302地区年次大会で、新しいライオンズクラブの歌を制定することが決まり、その決定に基づいて藤浦洸作詞・古関裕而作曲の「ライオンズクラブの歌」が出来上がった。この歌はハモンドオルガンの伴奏付きの男声斉唱

で録音され、そのテープが各クラブに配られた。だが、テープがあるから皆ですぐ歌えるというものでもない。そこで、東京では独特の方法を考え出した。

61年7月、東京では例会に2人の若い女性が姿を見せた。彩阪田一夫の回顧談。



1960年、都内17クラブ合同で八王子市に青年の家建設。日本ライオンズ10周年記念事業

1985年（昭和60）

- 3月 東北・上越新幹線、上野一大宮間開通
- 3月 つくば科学万博開幕
- 5月 男女雇用機会均等法成立
- 8月 日航機、群馬県御巣鷹山に墜落
- 9月 主要5カ国蔵相・中央銀行総裁会議（G5）、為替市場への協調介入強化で合意（プラザ合意）
- ブーム ファミコンブーム

- 3月 つくば科学万博に協力、会場内に「身体障害者・お年寄りセンター」を建設、会期中、地元会員、ライオネスがヘルパーとして奉仕
- 8月 ユニバーシアード神戸大会に協力、発展途上国の選手を招請、往復の航空運賃と選手村滞在費を日本ライオンズとして援助

く古関裕而作曲の国産ライオンズの歌ができました。ところが、この歌、節回しが難しく、音楽教育を受けていない我々大衆にはなかなか正調で歌えない。ついモニャモニャと歌うことになり、まことに意気上がらずということでありました。そこでお師匠さんと呼んだらという提案をしましたところ、言い出し兵衛が世話をしろということになり、家に



東京3rd例会風景

1986年（昭和61）

1 月 スペースシャトル・チャレンジャー爆発

4 月 チェルノブイリ原発大事故

ブーム ダイアナ・フィーバー

流行語 新人類

クエスト・インターナショナルと提携、青少年のための教育プログラム、ライオンズ・クエスト・プログラム開発

帰って長女（当時芸大在学中）に相談したら、私よりもっとものおじしない美人を連れて行って、自分は伴奏するかどうか、というオファーがあり、この河上さんというものおじしないお嬢さんと私の長女が相務めりしわざとなりました」



10周年記念式典で故・彩石川欣一夫人に記念品を贈る彩迫水久常

こうして、例会にはピアノ演奏付きで歌唱指導の女性が出席することになり、63年7月からは遠藤祐子（島田祐子）さんがピアノ伴奏を務めた。また、翌64年9月からは遠藤さんが歌い、ピアノは寺田さん、65年からは吉田郁子さんがピアノを弾いた。生演奏は歌のリードだけではなく、食事の間のBGM音楽としても演奏され、クラシックからポピュラーまでの幅広いレパートリーで喜ばれた。

67年3月には、翌68年が明治百年になるということで、彩坂本正発案・彩朝吹英一編曲で「明治大正歌曲集」が例会で披露された。その後もピアノ・福田富美さん、歌・山口晶子さん、松尾香さんの演奏でこのユニークな試みが続き、楽壇のホープとなった島田さんも協力を続け、東京の生音楽例会として話題になっていった。

1987年（昭和62）

10月 ニューヨーク株式市場大暴落（暗黒の月曜日）
11月 岡本綾子、全米女子プロゴルフ・ツアー賞金女王に
11月 大韓航空機爆破事件
世相 バブル、朝シャン

7月 第70回国際大会で彩小川清司（東京渋谷）、国際第三副会長に当選
7月 国際会則が改正され、女性の入会が認められる

ライオンズ・マークの消防司令車

節目の年に記念の周年行事を計画できるのは、その集団にある程度のゆとりがある証拠に違いない。東京でも初期の一時的混乱を克服し、彩迫水久常が会長、彩三崎矩光が幹事を務めていた62年3月、10周年を迎えた。会員は127人を数え、生音楽のある例会も好評のうちにスタートしていた。彩迫水は第2次池田内閣の郵政大臣も務めることになり、このため、この時期は幹事をはじめ副会長の彩守随乙作、彩森卯一郎、彩式場隆三郎らも多忙を極めた。

62年3月5日、東京・丸の内日活劇場4階の日活ファミリークラブで10周年を祝う記念例会が開催された。記念例会には、都内16クラブやスポンサーしたクラブの会長・幹事、それに302E-1地区役員、ロータリークラブ会長らが招かれた。歴代会長・幹事、チャーター・メンバーに記念品が贈られ、全会員、来賓にも記念の品が贈られた。

越えて4月3日、10周年記念事業である消防司令車の贈呈式が、東京消防庁前で行われた。この車はプリンススカイラインを改造したもので、短波通信装置や赤色回転灯、モーターサイレン、拡声器などを備え、車全体を赤色塗装し、ライオンズクラブのマークを付けたものであった。その日からLマークの司令車が都内を走り回ることとなった。

評価された国際的な会議の運営

58年の第2回アジア大会を成功させた東京では、63年4月、都内の全クラブと共に、日

1988年（昭和63）

3月 東京ドーム完成

4月 瀬戸大橋開通

6月 リクルート事件発覚

ゲーム「ドラゴンクエストⅢ」人気

3月 日本初の女性クラブ、東京櫻が認証



1963年4月、東京・帝国ホテルで国際理事会が開催された

本で開かれる初の国際理事会を成功させた。理事会は帝国ホテルで開催され、歓迎晩餐会がホテルオークラ平安の間で開かれた。このバンケットには国内からも178クラブ、1075人が加わり、総勢1216人の盛大なものとなった。このバンケットは国際協会事務局も〈ライオンズ史上一番ゴージャスでしかも最も感銘的なものだ〉と称賛し、この経験がまた69

1989年（昭和64、平成元）

1月 昭和天皇崩御
2月 吉野ヶ里遺跡発見
4月 消費税実施
6月 天安門事件
流行語 セクハラ

9月 小川清司国際第一副会長（東京渋谷区）死去

年の東京国際大会に有効に生かされていく。この年の例会からは、例会場に世界のライオンズ各国の小旗を掲げ、会場入り口にはリッチランド基金の壺が置かれた。例会ごとに2、3カ国の旗を紹介し、できる限り国歌も演奏して、国々への理解を深める努力がなされた。当時、国際委員長であった彩式場隆三郎は、訪欧の機会にクラブの予算で日本の国旗と「君が代」のレコードのセットを用意し、行く先々の国の国旗・国歌と交換して、それをまた例会に役立てたりした。

その年はまた、事務所が岸本ビルから移転した年でもあった。63年11月、事務所は、日本橋・江戸橋の日米ブラインドビルに移転し、ビルの3階264㎡を借り切り、都内33クラブの合同事務局に生まれ変わった。この後、事務所は67年に本八重洲ビル4階、495㎡に再び移転、国際クラブの首都圏域の事務所としての陣容を整えるに至った。

花薫るスズラン給食

64年10月、日本はオリンピック開催に沸き上がり、全国のライオンズはトレーラーの移動トイレとメイン・スタジアムの旗竿を寄贈、東京では東京都内の全クラブと共にオリンピック会場に、たばこの吸い殻投げ捨て防止のための吸い殻入れ20万個を配布した。また、その後のパラリンピックには、これも東京都内の全クラブが合同で「パラリンピックを成功させよう」というTVスポットを流した。この年の少年少女委員会の働きは目覚ましく、都内全小学校に高齢者へ慰問ハガキ（計3万1560枚）を出してもらうことを依頼したほか、シュバイツァー伝のスライド・テープ100組を制作・配布したり、その映写機・テーブル

1990年（平成2）

10月 東西ドイツ統一

11月 天皇即位の礼

12月 TBS・秋山豊寛、日本人初の宇宙飛行

流行歌 「おどるポンポコリン」

4月 国際花と緑の博覧会に協力、会場駅前に沈床式庭園と会場入り口に「障害者センター」を建設、会期中、地元会員がヘルパーとして奉仕

7月 日本赤十字社が創設した昭和天皇記念献血推進賞の第1回受賞団体に日本ライオンズが選ばれる

コーダーを寄贈したりという活動が続いた。そして、越えて65年、東北の盛岡²から思いも寄らぬ便りがもたらされた。

盛岡から53km、バスで2時間半の玉山村藪川に、欠食児童が多数いるというのである。「学校給食法」が施行されてからすでに10年を経ているのに、僻地校での給食は皆無に等しかった。盛岡²は、藪川校に給食設備を贈り、子供たちはスズランを採取してこれにこたえた。盛岡²はそれを東京に送って、ライオンズの協力で買い上げ、その資金を給食費に当てようという作戦に出た。

東京²はこの呼び掛けに真先にこたえ、直ちにまず5万円を贈り、続いて17万円を送ると共に、その後で送られてきたスズランを一



スズラン給食。藪川小学校で給食始まる

束1000円で買い上げて、売り上げ金を盛岡²を通じて贈った。運動の輪は次々に広がり、都内・横浜の26クラブが協力した。さらに、²上田常隆が社長を務める毎日新聞がこの運動を大きく伝え、ラジオ、テレビがこれに続いた。毎日新聞の社説を読んだ佐藤首相は、緊急指示を下し、予備費の中から5億円を緊急措置で学校給食に割くことを閣議決定し、

1991年（平成3）

- 1月 湾岸戦争勃発
- 4月 新都庁舎オープン
- 6月 雲仙普賢岳で大規模火砕流発生
- 12月 ソ連邦解体
- 流行 茶髪

- 8月 国際協会75周年記念の世界青年会議を滋賀県守山市で開催
- 11月 第30回東洋・東南アジア・フォーラム、神戸市で開催

同じような事情の全国の学校で給食が開始された。さらに翌年、辺地給食に3億2000万円の予算が計上された。この活動で東京クラブをはじめとする東京・横浜地区の26クラブのアクティビティ金額は約112万円に上ったが、金額の多寡を超える大きな成果を示した活動であった。

善意に守られたサメにかまれた漁船員

70年12月、ライオンズクラブの国際性を示す出来事が再びマスコミの話題となった。



ハワイから帰国した亀谷さんに付き添う彩守田俊郎

その年11月21日、宮城県本吉郡唐桑町の漁船員亀谷孝さんは第10太平丸に乗り組み、ハワイ南南西800kmで操業中、水揚げしたサメに腕をかみつかれ出血多量の重態となった。直ちに米国ハワイ沿岸警備隊が出動し、空軍救援隊のヘリコプターでホノルルの病院に運ばれたが、壊疽を起こし、付け根から切断の事態となった。ハワイ・ホノルルのカラカウアクラブ、モアナクラブ、カメハメハクラブの3クラブは、亀谷夫人を招いて、亀谷さんを元気づけようと、夫人をハワイに招待することに決め、12月1日そ

1992年（平成4）

7月 山形新幹線開業
9月 毛利衛、スペースシャトル・エンデバーに搭乗
9月 学校週5日制スタート
ブーム きんさん・ぎんさん人気者に

3月 第4回国際平和ポスター・コンテストで日本から初の最優秀賞
10月 日本ライオンズ40周年記念大会、仙台市で開催

の旨を東京㊦に伝えてきた。事務局は直ちに仙台㊦の事務局に伝え、仙台㊦は河北新報社会部と連絡をとって亀谷さんの詳しい住所を聞き出し、気仙沼㊦の協力で亀谷夫人と連絡がついた。亀谷夫人は、気仙沼㊦メンバーの車で仙台へ向かい、全日空機で羽田へ飛んだ。羽田では東京㊦が協力し、2日夜、亀谷夫人はパンアメリカン機でホノルルへ向かった。

亀谷夫人の到着後、亀谷さんの病状は好転、12月13日、夫妻は羽田へ帰ってきた。亀谷さんは機内で再び出血が始まったため、出迎えた東京㊦の杉守田俊郎（八代目坂東三津五郎丈）らの献身的な奉仕を受けながら、救急車で近くの高野病院へ向かった。亀谷さんはその後経過も良好で、郷里へ帰り、第10太平丸の船主からも東京㊦あてに国境を超えた愛のリレーへの感謝の手紙が寄せられた。

15周年記念の年に盲導犬協会発足

67年3月23日、帝国ホテル孔雀の間で東京㊦結成15周年記念晩餐会が開かれた。東京㊦は66年5月に過去最高の137人の会員を数え、記念祝賀の月には132人の会員数となっていた。この日、来賓50人を含めて会員や同伴者ら188人が出席、八木治郎氏の司会で会が進み、武見太郎会長の挨拶の声も弾んだ。式典では15年間100%出席者の杉古川正重に表彰状が贈られ、歴代会長・幹事、石川欣一夫人、事務局の千葉小枝子さんに記念品が贈られた。

式典の後、前田憲男トリオ、立川澄人、岸洋子の演奏に拍手が沸き、舞台には、前年のNHK朝の連続ドラマ「おはなはん」で人気の榎山文枝さんも姿を見せて、祝いの雰囲気

1993年（平成5）

1月 EC市場統合
5月 Jリーグ発足
6月 皇太子ご成婚
流行語 コギャル

7月 北海道南西沖地震に全国から義援金
8月 埼玉県・東松山Cのスポンサーでモンゴル初の
ウランバートル・セントラル㊦結成



盲導犬協会チャリティー・ショー。写真右彩福岡陽道

を盛り上げた。記念事業として、東京消防庁に救急用監視装置一式、担架20基が贈られた。

同じ67年6月、ヒルトンホテルで財団法人日本盲導犬協会の発起人総会が開かれた。東京からは、彩福岡陽道、彩守田俊郎が理事として参加、彩迫水久常が理事長に選ばれた。東京からは、視力保護盲人委員会の活動として、まず5万円を

寄付し、その後も70年代半ばまで精力的な支援を続けた。

協会は経費の半分をライオンズクラブの寄付で賄っていたが、発足当初は運営にも苦しんだ。募金額がどうしても100万円足りないことがあった。伝え聞いた歌舞伎俳優の彩守田俊郎は、国立劇場を借り切って踊りの会を開き、純益の中から100万円を協会に寄付した。その後も彩守田の努力が実って、贈呈式の時には、東京からは彩岡村武が会長を務める日本自転車振興会から1705万円の寄付が寄せられるなど、東京と会員のアクティビテ

1994年（平成6）

6月 松本サリン事件

7月 日本人女性初の宇宙飛行士・向井千秋、スペースシャトル・コロンビアで宇宙へ

10月 大江健三郎、ノーベル文学賞受賞

流行語 価格破壊、イチロー効果

7月 彩池崎道男、330-A地区ガバナーに就任

イが続き、協会の活動を支えていった。

姉妹提携と初の国際大会開催準備

69年7月、日本で初めての国際大会が東京で開催された。世界的コンベンションは初めてのことであって、その準備には相当てこずった面もあった。なかでも大会初日のパレードについては、警備に当たる警視庁がデモとパレードの区別がつかず、交渉が難航した。このため、世界大会協力委員長の彩迫水が秦野警視總監と直接交渉した。その結果「君、適当にやれ。デモじゃないんだという立場でやれよ」という警視總監の一言で、パレードができるようになった、という。国際大会では、姉妹提携の調印という場面も用意された。

姉妹提携については、台北とソウルからほぼ同時に申し入れがあり、その後、フィリピンのマニラからも締結の申し入れがあった。

68年、台北中央国際獅子会の会員が、韓国のソウルを訪れ、その帰途、東京に立ち寄った。一行は、当時の東京会長樋口果を通して姉妹提携締結を申し入れてきた。クラブでは一行を例会に招いてその申し入れを正式に受け入れることとし、その年9月に正式文書を受け、10月1日、姉妹提携の運びとなった。また、同じ68年の11月、フィリピンのマニラで第7回東洋・東南アジア大会が開かれ、マニラからはこの機会に姉妹提携の調印をしたいという申し入れがあり、この大会に出席した彩塩原有と彩福岡勇が18日の調印式に臨んだ。

一方、同じ68年、韓国のソウルからも訪日の際に姉妹提携の申し込みがあり、同クラ

1995年（平成7）

1月 阪神・淡路大震災

3月 地下鉄サリン事件

11月 野茂英雄、米大リーグのナ・リーグ新人王に

ブーム ウィンドウズ95大人気

流行語 ボアする、官官接待

10月 神戸市布引ハーブ園で阪神・淡路大震災慰霊碑
の除幕式

ブの結成10周年に当たる69年 2 月に締結したいとの申し入れがあった。これに対しても、8 月の臨時理事会で相談した結果、東南アジア各国の最古参クラブとは姉妹提携をするという結論に達し、ソウル^ヲの申し込みを受けることとした。しかし、69年は東京で国際大会が開催されるので、その準備のため日程の調整が難しく、結局、国際大会の 2 日目に当たる 7 月 3 日に締結式が行われ、アジア地域での連携がさらに強化された。

20周年記念基金を積み立て活用

70年代に入ると、例会のゲスト・スピーカーはますます多彩になっていく。例えば70年から72年にかけては、日本山岳会・松方三郎会長、日経新聞論説委員・斉藤志郎氏、参議



1966年 4 月、マイアミビーチでの国際理事会で1969年東京国際大会開催が決定。
写真中央・招致委員を務めた杉浜本正勝

院議員・安西愛子氏、NHKアナウンサー・大塚利兵衛氏、鈴木健二氏、漫画家・岡部冬彦氏、経済評論家・稲葉秀三氏、帝国ホテル料理長・村上信夫氏などの顔が並ぶ。

72年 3 月、東京^ヲは20周年を迎えた。既にこの年までに、東京芝^ヲ、市川^ヲ、川口^ヲ、伊東^ヲ、日立^ヲ、日光^ヲ、千

1996年（平成 8）

5 月 国際サッカー連盟、2002年のワールドカップの
日韓共催を決定

10 月 初の小選挙区比例代表並立制の選挙

12 月 ヘルー大使館占拠事件発生

世相 全国でO-157患者が大量発生

流行語 チョペリバ・チョペリグ

3 月 国際理事会で2002年国際大会開催地が大阪市に
決定

葉^ヲ、東京練馬^ヲ、東京世田谷^ヲへとエクステンションの輪が広がり、合計19クラブをスポンサーしていた。会員数も、常に100人を超える数を維持し、この月は113人を数えていた。

20周年記念例会は帝国ホテル富士の間で行われた。全国の子クラブをはじめ大阪^ヲ、京都^ヲ、盛岡^ヲなどから来賓が列席し、20年会員の紹介、皆出席者表彰の後、^ヲ福岡陽道発想・^ヲ朝吹英一作曲の「物故ライオンズ追悼曲」が奏でられる中で、亡くなった会員の追悼が行われた。また、晩餐に入ってから、広沢園子さんのマリンバ演奏、岩崎純子さんのソプラノ独唱（ピアノ伴奏福田富美さん）などが披露された。

20周年記念事業は、基金を積み上げて有効活用することになり、76年までの4年半の間に会員1人年2万円を積み立てて、1000万円基金を達成し、これを貸付信託へ預け入れてその後の事業に活用するという、長期の展望に立ったものになった。

25周年記念で時計塔補修・改新

70年代に入ると、奉仕活動にも変化が表れ始める。72年、^ヲ古川正重が会長の年、“地域に緑を”と環境保全を目的に浜町川埋め立て緑地帯に植樹の奉仕が行われ、73年、^ヲ前田幸蔵が会長の年にも、中央区明石町聖路加病院前のあかつき公園の道路に面した一角に、バラの木などの大小の木々を植樹して、自ら汗を流す活動ともなった。また、皇居外苑緑の会にクスノキなどを贈って、都市緑化運動を支援する活動が始まった。この会へは、66年2月に皇居周辺の道に鋼鉄製の柵を立てて以来支援を続け、この後もこの会を通して環

1997年（平成9）

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 3月 秋田新幹線開業 | 4月 日本ライオンズから寄せられた義援金で再建された神戸母子寮竣工式開催 |
| 6月 神戸児童殺傷事件犯人逮捕。「酒鬼薔薇聖斗」は14歳の少年 | 10月 国際理事会で国際青年会議所との提携を採択 |
| 10月 長野新幹線開業 | |
| フォーム「たまごっち」「ポケモン」「プリクラ」ヒット | |

境整備運動を支えていった。

クラブの運営の上でも新しい動きが見られるようになり、彩若林法雄が会長であった76年7月には、8複合地区時代となり、初めての納涼家族会が白金迎賓館で行われた。

翌77年に東京では25周年を迎え、3月18日、帝国ホテルの富士の間で記念例会が行われた。例会は、彩大原久之の開会の辞に始まり、物故会員追悼、各種記念表彰と続いて、彩藤間豊（尾上松緑丈）による記念の祝舞「^{よきこころ}斧琴草」が披露された。また記念の音楽ショーでは黒柳徹子さんと島田祐子さんのソプラノが披露された。記念事業としては、翌年に予定されていた東京での国際大会に備え、日本武道館前の時計塔を修理・改新することとした。



1977年5月7日、大阪フェスティバルホールで開催された日本ライオンズ25周年記念式典で紹介される東京地区チャーター・メンバー

た。

この時計塔は、69年に東京で第52回国際大会が開催された折に、302E-1地区（東京・埼玉）が記念として寄贈したものであったが、この当時は正確に動かなくなってしまっていた。再び東京で国際大会が開かれるのに、記念の時計塔がそん

1998年（平成10）

2月 長野オリンピック開催

4月 明石海峡大橋開通

6月 日本、ワールドカップ初出場

7月 和歌山市で毒入りカレー事件

映画 「タイタニック」

2月 長野オリンピックに日本ライオンズから参加各国の国旗等を寄贈

11月 横浜フォーラム記念エクステンションとして、ベトナム・ハノイ地区結成

11月 第37回東洋・東南アジア・フォーラム、横浜で開催

な状態でいいわけがない。常に日本のライオンズの先頭に立ってきた東京クラブは、これを25周年記念事業とし、約440万円をかけて全面的に新しくした。

三崎が会長を務めた77年10月には、福祉委員会が中心になって街頭での献血の呼び掛けが始まった。これは、ゾーンが一体となって実施したもので、12月に第2回の献血活動が行われ、78年2月に第3回、6月第4回と続いた。初の街頭での奉仕活動であった。また、2回目の国際大会が開かれた78年には、ゾーン合同の大会記念アクティビティとして日赤へ献血広報車が寄贈され、地域での提携が広がっていった。



東京国際大会

合同歌舞伎チャリティー・ショーの実施

東京のクラブらしい奉仕活動が行われたのも70年代の奉仕活動の特徴であった。東京の

1999年（平成11）

1月 欧州連合（EU）の単一通貨「ユーロ」誕生
 2月 臓器移植法による初の脳死判定・臓器移植行われる
 9月 東海村のウラン加工施設で国内初の臨界事故
 流行語 リベンジ、ミレニアム

8月 トルコ大地震発生。日本ライオンズとして合同事業を展開
 9月 台湾大地震発生。日本ライオンズとして合同事業を展開

ライオンズクラブには、東京㊦の彩守田俊郎（坂東三津五郎丈）と彩藤間豊（尾上松緑丈）、東京霞ヶ関㊦に彩寺島誠三（尾上梅幸丈）、東京銀座㊦に彩青木啓臣（中村雀右衛門丈）、彩波野聖司（中村勘三郎丈）、東京堀留㊦には彩河村藤雄（中村歌右衛門丈）、東京番町㊦に彩仁科周芳（岩井半四郎丈）、東京浜町㊦に彩相馬孝至（市川門之助丈）らの歌舞伎俳優が所属し、このメンバーたちは、舞台の合間を見ては熱心な活動が続けていた。ライオンズのメンバーが歌舞伎の観劇に出かける回数もおのずから増えていったが、74年からは、歌舞伎俳優会員の協力を得て、東京㊦と、東京霞ヶ関㊦、それに東京番町㊦の合同で歌舞伎チャリティー・ショーが行われた。歌舞伎座を借り切り、3階席は奨学生や家族らにも開放し、大きな反響を呼んだ。74年2月、この活動での収益金100万円を日本赤十字社に寄付し、その後も、この活動は77年2月まで4年間続き、反響を呼んだ。

数寄屋橋公園に花時計

82年3月、東京㊦は発足30周年を迎えた。記念例会は恒例の帝国ホテル富士の間で行われた。例会では、記念事業の日赤への血液運搬車寄贈と、数寄屋橋公園への花時計の寄贈が紹介され、島田祐子さんらが、例会で歌われて人気のあった幾つもの歌を披露して拍手を浴びた。当時、数寄屋橋界隈は大きく姿を変え、日劇や朝日新聞社は移転してデパート群が進出、数寄屋橋交番もトンガリ屋根に変わっていた。寄贈されたこの花時計は、四季の花々のなかで時を刻む趣向のもので、都心を行き交う人々の話題になった。

2000年（平成12）

- 1月 コンピューター2000年問題、大きなトラブルなし
- 4月 介護保険制度始まる
- 6月 金大中大統領平壤訪問、金正日総書記と歴史的
首脳会談
- 7月 九州・沖縄サミット開催
- 9月 三宅島全島避難

- 3月 第12回国際平和ポスター・コンテストで日本から2人目の最優秀賞



結成30周年記念事業として数寄屋橋公園に花時計を設置

50周年を見通した奉仕事業

東京クラブは20周年記念事業以降、特別のことがない場合、金額で年間 300万円から400万円のアクティビティを実施し、周年事業などでは、それにふさわしい規模の事業展開をしてきた。これには、20周年記念基金の積み立てが大きな役割を果たしており、80年代から

2001年（平成13）

- | | |
|--|---------------------------|
| 1 月 中央省庁再編、1 府22省庁から 1 府12省庁へ | 7 月 東洋・東南アジア初の新世紀ライオンズクラブ |
| 2 月 実習船えひめ丸、米原潜と衝突し沈没 | として、群馬県・高崎ニューセンチュリークラブが |
| 6 月 大阪・池田市の小学校に刃物を持った男が乱入、
児童 8 人死亡 | 結成される |
| 9 月 新宿・歌舞伎町雑居ビル火災 | |
| 9 月 米同時多発テロ | |
| 10 月 米、アフガニстанを報復攻撃 | |
| 映画 「千と千尋の神隠し」 | |

90年代になってもこの事情には基本的な変化がなかった。

86年の35周年記念事業では、ピースハウス建設協力金として500万円を拠出し、40周年記念事業では、3年間の議論を積み上げて10年後の50周年を見据え、環太平洋地域の国々の教育に貢献するため5000万円の基金を創設することとし、その第一歩として500万円を拠出した。ライオニズムについての長期の展望に基づいた事業と言えよう。

当時の会長であった杉長宗新作は、原点に返ることを強調して、「手弁当で奉仕することから始めよう」と訴えていた。東京 Lions の会員数は80年代に入って100人を割るようになり、40周年を迎えた92年3月の会員数は90人となっていた。会員の減少は、日本のライオンズが抱えていた共通の課題でもあった。その後も東京 Lions の会員の漸減傾向が続いていくが、この10年後に視点を据えた基金の積み立ては、折からのバブル崩壊という経済環境も踏まえ、時代の中でのライオニズムの姿を問いかける、東京 Lions の新たな挑戦の姿勢を示したものだと言えた。

40周年記念例会は恒例により帝国ホテル・富士の間で行われ、台北 Lions の杉張鴻亨の祝辞の後、記念品や花束の贈呈などがあり、最後に「世紀末の回顧と展望」と題した渡部昇一氏の講演を設定して、これまでの記念例会とは趣を異にするものとなり、ここでも新時代へ向かう東京 Lions の新たな姿勢を示した。

日本のライオンズのさきがけとして誕生した東京 Lions は、常に先陣に立ち、ライオニズムの在り方を追究してきた。その半世紀にわたる足跡は、おのずから、時代と共に在るライオンズクラブの姿を物語って、新しい時代への示唆に富むものとなっていると言えよう。

ライオンズ・ローア

半世紀の響き



●東京ライオンズワルツ●

作詞・作曲：朝吹 英一

- 一 いつも明るい例会は 第二、第四木曜日
帝国ホテル本館に 集う東京ライオンズ
- 二 歌に始まるこの集い 食事の時の楽しさよ
きょうも学んだ新知識 みんなで誓う「ウィ・サーブ」
- 三 いつしか時も過ぎゆきて「また会う日まで」歌いつつ
右と左に別れ行く あすへの希望 胸に秘め
おお東京ライオンズ おお東京ライオンズ

●『ライオン誌』への会員寄稿再録●

あの日あの頃あのライオンが

注：掲載時の表記に従ったが、明らかに誤字・脱字と思われるものは適宜訂正した。原文が縦書きのものは、差し支えない範囲で漢数字を算用数字に変えた。記号類も他との統一を図った。一部、今日では好ましくない表現とされるものがあるが、歴史的事情を考慮して原文のままとした。

東京ライオンズ・クラブのラジオ活動について

石川 欣一

東京ライオンズ・クラブがラジオ活動をやっていることは、東京ではあまり知られていない。もともと地方文化の発達に、幾分でも貢献する目的から、地方の民間放送局にテープを寄附しているからである。民間放送会社もこれをいわゆるサス・プロ（スポンサアをつけぬ番組）とし、時間を提供しているのである。そして実際の製作には、NBAプロダクション・ユニットとして知られる民間放送連盟所属のプロダクションが、これ又利害を超越してあたっている。つまり当クラブ、放送会社、製作者の三者が、合体して社会奉仕をやっているのである。

× ×

ラジオ活動は二つである。一つは「書斎から」といつて私が一人でやっている、いわば随筆放送であり、昭和29年10月で100回になる。毎週1回15分、提供放送局は青森から宮崎まで全国20局で、時として対談——例えば第97、98、99の3回は、はじめの2回が俳優座研究所附属の俳優養成所の研究生の話を聞き、最後の1回は養成の実際を見学し、説明して貰った——をやつたが、大体本や雑誌で読んだ話を、勿論ライオンズ・クラブの仕事だから、政治や宗教には全然ふれず、一人で放送した。100回というと約2年だが、1回もかいたことがない。

× ×

もう一つは「東京文化便り」という、やはり週1回15分のサス・プロを、東京ライオンズ・クラブが企画して、青森から宮崎に至る18の放送局に提供している。これは東京で開催された特殊な催しを題材とし、会場の風景を音の面から取り上げ、又はその中心話題を扱ったりしている。これは割合新しく、まだ30回前後だが、中々面倒な取材を、NBAプロダクション・ユニットの若い人達が、熱心にやつてくれている。その二、三を御紹介すると第2回が本年2月28日の斎藤茂吉翁の一周忌

には、東京の都心で大きな追悼会が開かれ、これは新聞にも報道された。所がその後、斎藤翁のゆかりの地新宿区で、もつと小規模な、然しもつとインティメイトな会があり、会の後で翁の友人長谷川銀作氏と愛弟子佐藤佐太郎の両氏に、特に思い出話を語って頂いた。第22回は第6回国際捕鯨会議が開かれているにちなんで、今日はすでに見ることの出来ぬ日本風の捕鯨法を、和歌山県の大田五郎作氏という80歳の御老体に話して頂いた。

×

×

現状は以上の通りであるが、20を越す右の二つの放送——ダブっているのがあるので——がいわゆる都市の中で、ライオンズ・クラブがあるのは至つて少い。然しその土地の方々は、すくなくともこの二つが、東京ライオンズ・クラブの企画によることは、知っておられるのであり、将来これがライオンズ・クラブ結成の一つの起因になるかも知れず、又そうなることを私は希望している。これは決して大それた希望ではないと思う。

(1955年刊『日本ライオンズ機関誌』掲載)

らいおんず快談

式 場 隆三郎

クラブ活動のすきなイギリスでは、糖尿病患者ばかりのクラブがあり、H・G・ウェルズが会長だつた。この話をきいたころは、まだ日本も平和で、のんびりしていた。西園寺公を会長にして、やつてみようと思ふになつた人もあつたが、いつか沙汰やみになつてしまつた。ウェルズの死んだ今日、イギリスではどうなつていようだろうか。いつか木村毅君に、喘息者クラブはどうだねと、すすめたことがあつた。病気のクラブはあまり苦しいものは、なりたつまい。注射器をもつてあつまり、ぜいぜい、ごほん、ごほん、とやつていたのでは愉しみもなからう。そこへゆくと糖尿病などは、重症でない限りはらくだし、生活に余裕のある人に多い病気でもあるので、クラブが成りたつかもしれない。

テンカン・クラブ、ヒステリー・クラブなどはできもしまいが、ちよつと想像しただけでも凄い気がする。ライオンズ・クラブも名前だけをきいた人は、タイガーズ・クラブよりも、はるかに強いだろうから、大変な強大なものだろうと思われる。しかし、このクラブはおとなしく、めつたに虎にもならない。各地のクラブの中では松山ライオンズが一番若く、平均年齢が三十いくつときいた。その会合に私も招かれて出てみたが、実に静かなものだつた。ライオンズはロータリーよりは大体若いのが特長だが、これから少し元気に吼え出したらどうだろう。

大体ライオンはいかめしそうにみえながら、案外みんなに親しまれる動物だ。むかしロンドンの動物園をみにいつたら、子供のライオンを時間貸しにして、遊ばせていた。芝生の上で小犬のようにじやれているライオンが、可愛らしかつたのを覚えている。ロンドンで想いだすが、トラファル

ガル・スクエアのネルソンの記念塔の下にあるライオンを模造したと伝えられる三越本店の入口の
一対ライオンも、戦時中の金属供出で、困りはてて、東郷神社へ寄贈してやつと生きのび、それが
戦後にもどつたとき。東郷神社は焼けたのに、あれだけ残つたのは不思議な気がする。まさかア
メリカ空軍が、ネルソン提督に敬意を表したわけでもあるまい。

ハリウッドの映画会社MGMのマークは、ごぞんじのようにライオンが吼えるのだが、映画女優
がライオンの口の中へ頭を入れる場面をとらされて、きもをひやしたという。いくら馴れたライオ
ンでも、あの大きな口の中へ頭をつつこんだら、どんな気がするだろう。女優はふわつと生暖かつ
たと、体験を語つたそう。

京橋のブリッジストンのライオンは、デンマークから買つてきたものだそうだが、あんな簡単に
口をあけるだけのものなのに、いつも人だかりがしている。ライオンは、大人も子供も好きらしい。

私の知人に富家礼恩という実業家がある。生れながらのライオンだから、そのうち入会をすすめ
ようかと思つている。中学時代の友人に笠原虎獅象（とせう）というのがいた。いたつて温良な秀才だつたが、
こうした親爺の慾張が生涯みについてまわるわけで、皆なから同情されていた。ライオンばなしは、
こんな風にいくらでもある。



機関誌の編集をひきうけて原稿をあつめたら、大部分が随筆ばかりなので何か一つまとまつたも
のを書こうかと思つてペンをとつてみたが、やはり随筆をかいてしまつた。クラブの雑誌は肩のこ
らないものがよからう。しかも今までペンをとつたことのない人にかいてほしい。その方が面白い
のだ。菊池寛が文芸春秋を成功させた原因はいろいろあろうが、あの随筆が人気をよんだ。実業家
や学者、軍人などに本職以外のことを書かせた。それらの人には原稿料がわりに記念品をおくつた
という。執筆者は大いによこび、文春を何十冊とかつては知人にくばつた。入沢達吉先生などで
さえ医学論文はいつも書いていながら随筆をたのまれたのは、ひどく嬉しかつたとみえて、方々の
知人にくばつていられた。文春のひろまつたのは、こんなことから新しい読者がついたのである。

ライオンズ・クラブは今さらその真似の必要もあるまいが、日頃ものを書けないと思つている人
が、氣がるにペンをとつて貰いたい。これから少くとも季刊にするし、そのうち月刊にもしたいの
で、500人の会員が一通りは何かかいてほしいものだ。雑誌がにぎやかになれば、自然クラブも盛大
になるので、ぜひ寄稿して頂きたい。クラブ活動自体も、今年あたりから大きな飛躍を期待する。
みんな有能な人たちはかりなので、やれば何でもできる筈だ。

会食それ自体はみんな期待もしていないので、あの会合をもつと有意義にしたい。話題をもちよ
り、プランをもつてあつまつて、その相談をして決つたら直ちに実行にうつす。社会奉仕もクラブ
自体に金がなくても、よびかける力を出したい。そうすれば相当の仕事ができる。アメリカの話を
夢物語のように羨しがらないで、日本は日本なりに特色のある仕事をしてゆきたい。

このクラブには各方面のエキスパートが無数にいる。この会員たちがフルに動き出したら、泰山
鳴動となろう。そしてネズミ一匹どころか、巨大なライオンが続々社会へ出ていつてばりやり

出したら痛快だ。とかく日本では、クラブというと社交だけかと思ひこむ。それも一つではあるが、それだけでは面白くない。その友愛が何かいいことに生きねばならぬ。社会奉仕をサービス専門の団体に任せて見物しているようなきらいがある日本で、ライオンズ・クラブは勇猛心をもつてどしどしいい仕事をしたいものだ。このメンバーと組織を動かせば、いろいろなことができよう。

眠れる獅子もすばらしいが、歩く獅子はもつとたのしく、走ればさらに立派だ。獅子吼がモットーの一つであるわがクラブは、ここらで少し吼え出したいものである。この機関誌が今年の新しい活動のきつかけをつくり、その状況を伝えることに役立てば嬉しい。行事が活潑になり、事業がひろがれば、自然この雑誌も面白くなる。たのしい随筆も大歓迎だ。しかし、抱負やプランをどんどん発表することにも、つかつていただきたい。何年かの後にライオンズ・ビルもできよう。そこを中心にして活動するのが、理想の一つである。さあ手に手をとつて立ちあがりましょう、と勇ましい結びの言葉をもつて編集記にかえる。

(1955年刊『日本ライオンズ機関誌』掲載)

座談会

黎明の鐘を打ち鳴らした人々かく語る

日本で初めて誕生したライオンズクラブ、東京LCが晴れのチャーターナイトを挙行したのは、いまからちょうど15年前、1952年の春分の日、3月21日のことだった。国際協会からエルバート第一副会長がチャーターをもって飛来、また生みの親であるマニラ^{マニラ}からはゴンザレス国際理事がはるばる来日、日本ライオンズの前途を祝した。

このときのチャーター・メンバー57名、うち外人20名であった。このほど東京^{マニラ}は内外の会員家族300余名を集めて、創立15周年記念式典を帝国ホテルにおいて催したが、15年来同クラブに在籍するものわずか7名、ほかに1957年東京新橋^{マニラ}結成と同時に移籍した^{マニラ}西郷を含め日本ライオンズの15年会員は8名ということである。某日、これらチャーター・メンバーにお集まりいただき、昔日をしのび、あわせて1969年東京大会を目指す日本Lの今後を語りあっていただいた。チャーター・メンバーの1人、^{マニラ}石田吉男は海外旅行中のため、残念ながらご出席願えなかった。

出席者 (ABC順)

古	川	正	重
浜	本	正	勝
井	門	幸	男
石	関	信	助
大	原	久	之
塩	原		有
司会	西	郷	徳
			男

東京クラブ結成のてん末

西郷 日本のライオンズも15周年を迎え、ますます隆盛に向かっているいま、また2年後には世界大会が東京で開催されるということで、日本ライオンズのチャーター・メンバーともいふべき皆さんに体験談をお聞きしてはというご提案をいただき早速実現したわけです。話の順序としましてLC結成までのいきさつ、その直後の状況、そして今後の方向づけといったようなものを順次お聞かせ願えればと思います。

塩原 彩バレンゴアが来たのは1951年の12月の初めですね。それまでは私、会ったこともない男だったんです。当時、村田省蔵さんを中心に、フィリピン友の会というのが八重洲通りの大阪商船ビルの事務室にあって、そこでほとんど毎日会合をしてました。そこへ彩バレンゴアが訪ねて来た。日本にLCを作りたいので国際協会を代表して来たと云い、これを読んでくれと云って英語のパンフレットを出されたわけなんです。その席に故彩石川欣一もおられたと記憶しています。彩石川も私もLCというものを全然知らなかった。とにかく彩バレンゴアはほかに用事がないから毎日毎日来るわけです。毎日顔を出されると放っておくわけにもゆかない。仕方なくパンフレットを読んだ。良さそうなことが書いてあるが全然LCなどというものを知らないもんで……。でも、せっかくフィリピンから来たのをすぐ追い返すこともできなく、村田さんに相談に行ったんです。さすがは村田さんLCというのを知っていましたよ。村田さんはロータリークラブの最初のチャーター・メンバーです。村田さんは、ロータリーは昔からあるのだから、このあたりで活気のいいLCを作ってもよいのではないかと云うんだ。そして、うちの事務所を使用してもよいと云うので、それで初めて私と彩石川はやろうという気を起こしたわけです。

井門 フィリピン友の会ができたのが1951年の8月15日ですよ。村田さんを会長として、彩石川、彩浜本、彩塩原がディレクターで始められた。これは戦争中に日本の軍隊が迷惑をかけたから、その懺悔でもないが、両国の友好関係をとりもどそうということで、それにはまずフィリピンとの民間友好から、というのがもりあがったものです。そこに彩バレンゴアが来て、国際親善、社会奉仕というもんだからね。

塩原 まずConstitutionというのを彩石川が翻訳したんですよ。今まだ東京²にあるんじゃないかな。

西郷 博物館ものですか。(笑)

塩原 彩石川が、テールツイスターなんていうのは日本語に翻訳の仕様がいないというんだ。尾をひねる者と云ったって日本語にならない。仕方ないから原語のまま書いて、そのうち慣れるだろうと、そのままにしたというようなことです。とにかく会員を募集しなくてはならないが、どこへ行ってもLCを誰も知らないんです。国際的なクラブであるということでわれわれも動いたが、最初はやはり外国人の会員が多く入った。これがあと問題となったんですが、彩バレンゴアの滞在期間が短いこともあって、素性もはっきりしないような者も急いで入れた。そして、結成式もCNも、初めから終わりまで英語でした。

井門 初め準備委員会という会合がありましたね。そのときも英語でした。

大原 初めの1年間は例会はずっと英語でやりましたよ。

LCと日比友好親善

西郷 それでは次に、皆さんがどなたの紹介でご入会なさったか、その動機など話していただきたいのですが……。

大原 私の会社では、当時千葉に製鉄所ができ、この原料をほとんど外国から買わなければならな

い。そこで、急にフィリピン、マレイ、インド方面と仲良くしなければならなくなった。ちょうどその頃、今村栄吉さんというライオンがいて、のちに都合で退会されましたが、やはりチャーター・メンバーで、日比友好関係を深めるにはLCに入るのがよいと、強く勧誘されて入ったわけです。LCについては入るまで全く知らなかったですよ。

浜本 私は彩塩原に話されるまで、LCとはどんなものか全然知らなかった。彩塩原に誘われて入ったわけです。

塩原 彩浜本はふたつ返事で入ってくれましたよ。

井門 私は10年ほどフィリピンにいましたが、そのときの友だちが彩バレンゴアと一緒に私のところへ来て、LCは国際的であり、社会奉仕をやる場所だから日本に作りたいが、という相談を受けたので、それでは、フィリピン友の会というのがあるから、そこへ行けと私が言ったのです。

浜本 それでは最初の接触点は彩井門というわけだね。こりゃ新事実だ。

塩原 彩井門はバレンゴアがスポンサーになっているわけですか。

浜本 あなたが一番毛並みのいいライオンだ。(笑)

古川 私も彩大原と同じく彩今村に誘われました。彩今村はずっと鼻が悪くて、私の病院に通っていた。そのときに、フィリピンの友人から暮になったら日本へ行くが、LCを日本に作らないかという手紙が来たというんです。そういう話があってから、彩バレンゴアが来日して入ったわけです。

石関 私は、やはりチャーター・メンバーでのちに退会された彩津末宗一と高等学校からの友だちで、彼に勧められ趣旨がよいから入ったわけです。単純な動機からです。

井門 彩西郷はどういう動機ですか。

西郷 私は故彩石川と大変懇意にさせていただいて、彩石川が彩バレンゴアと一緒に来られて勧められた。彩石川がやっていることならいいだろうということで入りました。ではほかに思い出にのこるチャーター・メンバーは？

石関 東京商工会議所の岡松成太郎さん、この方はいま仙台の方にいらっしゃいますね。それから星島二郎さんもなかなか熱心でしたよ。

西郷 フィリピンのライオンズが、日本へスポンサーしたという、そのあたりの事情はどうですか。

塩原 国際理事会で日本にライオニズム移植を提言したゴンザレス理事が、チャーターナイトに来て演説しましたが、その趣旨をよく説明していると思います。

今度の戦争でフィリピンは大変つらい目にあった。恨みはある。しかし、憎い憎いと思っていることの方がよけいにつらい。だから、もう戦争は終わったんだから、過去をして過去たらしめ、手を取りあって仲良くした方がよいのではないか。だから私は国際理事会で日本へスポンサーしようと言いだしたんだ、と。そんなことで彼の考えはむしろ高邁な理想かもしれないが、私はすばらしいことだと思いますね。そのスピーチには感激しました。

西郷 フィリピン人というのは、そんな国際人的なセンスが発達しているんでしょうか。

井門 東洋のキリスト教国だから、やはり人道的な教育を受けているんでしょう。

塩原 まだ国交が回復されていない時点でそういうことを言ったということに歴史的意義があると思われ、この点は大きく評価されるべきだと思います。

浜本 日比関係は、昔は大変困難な問題でしたね。

井門 キリノ大統領が戦犯を釈放したが、それより以前のことですからね。後なら右へならえということも考えられますが。

塩原 そういう日比間の友好の先例をつけたようなムーブメントですね。

大原 私は2代目会長のときに仕事でフィリピンに行った。そのときの印象ですが、行ってみてびっくりした。表通りは歩けない。裏街道も行けば危険だから行ってはだめだということでした。当時日本の商社の連中が海岸へ散歩に出たところ、現地民に袋だたきにされたという事件もありました。そんなときに、私はライオンであるがゆえに大そう歓迎されました。ちょうどマグサイサイ大統領の親戚の結婚式に招かれ、その最中はいいい気になっていたんですが、ひとたび外に出ると、見物人がとり囲んできて“日本人はわれわれの仲間たちを殺したんだ”と叫び私にむかってくるんですよ。するとLCのメンバーが、まわりから私を抱きかかえるようにして守ってくれました。そういう時代でした。それからダバオへ行ったんですが、そこでは現地民がワッと集まって「フルカワだ、フルカワが来た」と大騒ぎなんで聞いてみると、この前惜しくも退会された彩古川義三と間違えられたんですね。彼は戦時中も実によくこの土地の面倒をみていたんで、そんなに慕われていた。改めて驚いたわけです。

浜本 LCはその後の日比親善に大そう貢献しています。

塩原 そういった歴史的背景というものをもう少し皆さんに知ってもらいたいですね。

草創期の苦心と躍進のきっかけ

西郷 次にLCの草創期における苦労話などお聞かせ下さい。運営問題なんかにはいろいろご苦労があったと思いますが。

石関 確か9月の例会でしたか、5人か6人のときがありましたね。

塩原 私と彩石川、彩浜本、彩大原、それに彩古川は15年間皆勤だからもちろんいたでしょう。それで例会をやっていたんだ。なぜそうなったかといえば、原因はスタートのできの悪さです。外国人が多かったということです。日本のクラブですから日本語でやるべきですが、日本人は言葉がわからないと、外国人と接することを大変おっくうがって出て来ない。

浜本 その頃の幹事は今の幹事より忙がしかったですよ。

塩原 それで彩石川と私は会長と幹事だからどうにかしないと消えてしまうというので、相談の結果、外国人にはやめてもらおうとまで考えた。そうしているうちにやめたいというのが出て来た。そして日本人の良いメンバーを入れるように努めた。この入れ替え作業をやるのに約1年かかりました。

石関 あのころは勧誘もむずかしかったですね。当時はまだアクティビティの実績がないものです

から、これから後こういうことをやる、ああいうことをやるという云っても、これでは話に乗ってこないですよ。

塩原 外国人には、LCは奉仕団体だから、クラブを作ったらすぐ社会奉仕をやれという考えがあった。私は会の基礎がかたまってからという考えで、当時のアクティビティは赤い羽根に5000円を寄付するとか、その程度のものでした。そういうことも外国人には不満だったようです。

大原 外国人は大そう横暴だったですよ。日本人は逆に小さくなっていた。私の会長のときはそのようなときでした。

塩原 東京Cができてから彩パレネンゴア夫妻を私の家に泊めたんですが、そのとき、毎日一緒に食事をしながら、彼に強く云ってやったんですよ。東京Cは失敗だ。これはみんな君のためなんだ。これから君は国際代表として、あちこちにクラブを作るだろうが、君がメンバーを紹介してはいかん。あくまでも地元の人々に全部まかせて、そこで責任をもって選ぶようにしないと再度このような間違いを起こすから、絶対に口を出さな、と強く云ってやりました。3月に東京Cができて、その年6月に横浜Cができたんですが、やはり外国人が入ったんです。これも結局やめてゆきましたが、彩小山も苦労しましたよ。それから1年ばかりたって神戸に作られたときは、私があまりやかましく云ったので口を出さなかった。それで神戸ではうまくゆきましたよ。

古川 実は今日の座談会で何かよい話の種はないかと思って古いものをひっくり返してみたら、ひじょうにおもしろい資料が出てきました。昭和30年に大変なアクティビティをやっているんですね。“笑いとマンボとクイズの集い”というのを日比谷公会堂でやった。これはLCが日本にできてわずか3年目です。会長がライオン園磨の彩小林で、私がアクティビティ委員長をやっていたので思い出したんです。当時のメンバーで日比谷公会堂を満員にしました。今では考えられないようなことです。あれをきっかけにしてLCがずっと広がっていったというような気がします。

塩原 それは貴重な資料ですね。

西郷 その頃マスコミが大々的にとりあげたんですね。

古川 初めてとりあげたんです。あのときは2度とこのような苦労はすまいと思ったんですが、のちに考えてみてほんとうによかったと思います。東京で2番目の新橋Cができたのもこのためですね。

西郷 この日比谷公会堂での催しのアイデアは、どなたが考えられたのですか。

古川 私の患者でマンボを踊っているのがいましてね。それで気がついたんです。

東京大会への課題

井門 例会場は、はじめ商工会議所でやっていましたが、商工会議所の系統がみんなロータリーでしたね。RCとLCとの関係ですが、日本のRCはその当時でもう32年からの歴史を持っていた。戦争で中断したが、ライオンズがわが国に入ったとき、RCは4000人会員がいたんです。そして、LC日本に来たる、強敵が来たことをすぐ感じて、まだクラブの少ない地方に指令を出して、行く先々でど

らんどん新しいクラブを作りました。ライオンズが日本にきて、数年の空白期間があったのは、そうしたことも原因でしたね。5年後の1957年ごろから爆発的に伸びだしました。

浜本 われわれの方は何もわからずに始めたばかりで、そんな対抗意識はまだ全然もたなかったのにね。むしろむこうが躍起になって、それにこちらが引きずられた感じだ。

古川 でもあのころからLCの方が若い者が多かったですね。

塩原 それでもライオンズの方が大きくなったというのは、ここらあたりに何かアピールする点があるかもしれない。

西郷 ではこの辺で隆盛をきたした原因と、また1969年世界大会のこと、今後の課題などについてお願いします。

浜本 LCができて1年目に消えかかったというのは、やはりメンバーの質ですね。ですから、今後メンバーの質については考えなければならぬですね。

井門 現在でも地方のクラブで退会者がたくさん出るというのは、そのあたりに問題があると思いますね。

石関 私はある身近かな人から聞いたんですが、最近できたクラブがつぶれかかっているんです。よく聞いてみると、われわれは、いろいろな名士、専門家に話を聞く機会がありますが、小都市では、ゲスト・スピーカーでそのような機会がありません。これが非常に魅力のないものになっているんですね。そこで、われわれが聞いているすばらしいスピーチをテープに録音して、その目録を各クラブに配って聞いていただくと喜ばれると思うのですが、小都市の各クラブがかたまってゆく1つの方法として……。

浜本 それはぜひ必要ですね。さらに積極的に云えば、貴重な話をする人にいろいろ地方に行ってもらおうということも考えられますね。

石関 外部の方でなくても、内部にも立派な方がおられますから、そういう方をお願いしてもいいですね。

西郷 1969年世界大会への展望ということはどうでしょうか。

浜本 日本の国が、好むと好まざるとにかかわらず、国際的な大行事ですから、これに今後最も大きなウエイトを置かねばならない。これ以上しめてかからなければならないということでしょう。

大原 具体的には、どうも日本人は社交性がたりない。そこで、このチャンスを利用して、われわれやわれわれの子供たちがもっと国際性を持ち、お互いが会っても挨拶もしないということのないように、まずわれわれ自身、豊かな社交と国際感覚を養ってゆかねばならないですね。

西郷 先日ライオン誌の編集賛助会で、この大会をめざして簡単なライオンズ英会話の欄を設けて、マナーと会話を最小限度できるようにしたいという話ができました。

浜本 それはいいですね。1969年までにはなんとか挨拶ができるようにしたいですね。すぐ名刺を出さなくてもいいから「ようこそ、いらっしゃいました」ぐらいはね。

西郷 本日は、どうもお忙しいところをわざわざお集まりいただきまして、貴重な秘話を聞く機会

を得ましたことを厚くお礼申し上げます。

(1967年5月号掲載)

スズランの便り

酒 井 忠 博

東京ではだいぶ夏らしくなってきた今日この頃ですが、蔵川の山々も銀色の衣を脱ぎ捨てて、白樺並木は緑の葉陰に小さな花の房がそよ風にゆれ、スズランの白い花が野山をつつんでいることと思います。学校の皆さんお元気ですか。宮校長先生が学校を定年退職なさったと云うニュースを聞きましたが、ほんとうに御苦勞さまでした。

思い出されます一昨年の冷害と云う非常事態にたくましく立ち上がられた皆さんが、力を合わせて敢然と「自分たちのことは自分たちの手で」と言って集められたスズランが一般世論を動かし、さらに「辺地校給食特別策」から「無料給与策」へと政府を動かした成果は、私たちの目を見張らせたものがありました。

私たち東京²⁷の会員も盛岡²⁷から、皆さんの恵まれない地理的条件に加え、凶作による苦しい日常生活のお話を聞くかたわらこのような悪条件を乗り越えて力を合わせて立ち上がられた皆さんの姿を見聞きして、微力ながらも僻地の皆さんに少しでも励ましと希望を与えられるのならばと、喜んであのスズラン給食に協力させていただいたのです。皆さんによって摘まれたスズランは、いま立派に全国僻地校の完全給食の無償実施と言う偉大な実を結び、幼いあなた方自身で考えたあの給食運動は、始めは小さな行動だったかもしれませんが、日本中の人たちを動かすことができたと言う自信と誇りを持つことによって、明るく強く希望にもえ何事にも屈しない立派な人間に成長していったと思います。

あの時東京²⁷の例会の席で分けていただいた、皆さんが汗と努力で摘んで送られたスズランの1株、家へ持ち帰って鉢植えにしたその1株は、妻や子供とともに皆さんの努力を無にしないよう大切に育てたかいあって、広い東京の一隅の私の小さな庭でスモッグにもめげず数株にふえて、5月小さな花が初めて開きました。そしてまた思い出されるのは、数年前1度訪れたことのあるあの玉山地方の山や川のたたずまいと、その後の蔵川の皆さんのことでした。山の昨年の作柄はどうだったかしら、皆さん方の健康は、学校給食は、宮校長先生の念願だった1度でよいから子供たちと一緒に昼食をとりたいと言っておられたことはあの時以来実現されていることと思いますが、皆さん元気で毎日の学習と、そして明るく活潑な運動をしているでしょうね。遠い東京の空の下から皆さんの幸福を祈りつつ、このお便りに私の庭の鉢植えのスズランの花の写真を添えて送ります。できたらお返事下さい。

なせばなる なさねばならぬ何事も

ならぬは人の なさぬなりけり

藪川小中学校生徒の皆さん

この前はお手紙や学用品その他いろいろどうもありがとうございます。

皆さんからいただいたものを、私たちは楽しく使っております。そしてさらに私たちは全国の皆さんからよせられたいろいろな援助をしていただいたお礼として、私たちにできることは一生懸命勉強することであると思います。

さて話は変わりますが、私たちはスズランの花をおし花にしてそちらにお送りします。うまくいきませんがどうぞうけ取って下さい。今では藪川も早坂高原等の観光客でずいぶんとにぎやかになりました。

学校ではクラブの活動もさかんになり、運動部では6月29日のへき連球技大会にそなえて一生懸命練習に励んでいます。そして27日には藪川小中学区民大運動会の予定です。とにかくみんな一生懸命頑張ります。もちろん運動だけでなく勉強でもがんばりたいと思います。まだいくらかでも書きたいことがありますけども、またいつか機会をみつけてお手紙を上げたいと思います。

最後に、そちらのご健康をおいのりいたします。

敬具

6月24日 藪川中学校生徒会

(1967年9月号掲載)

人類愛を今こそインド救ライに

アジア救ライ協会理事長 上田 常隆

救ライに火をつけた日本ライオンズ

私はライオンズクラブのメンバーとして、側面からアジア救ライの事業に協力してきたが、昨年秋ぜひにとの懇望もだしがたく、救ライ協会の理事長を引きうけざるを得ない立場になった。その結果、協力する立場から、協力をうける立場になった。

そこで、私はこの際、アジアなかんづくインド救ライについて、来し方行く末を説明して、わがライオンズクラブの各位に訴えるのも無駄ではないと思う。

アジア救ライ協会とライオンズクラブの関係は改めていうまでもなく、昭和34年5月、京都で開催された302地区（当時はE・W分割前）第5回年次大会で、インドに救ライの手を差しのべようではないかという提案がなされ、その調査費用を提出し、調査のためインドに派遣されたのが、前年国立療養所菊池恵風園園長を退いていた、熊本県の彩宮崎松記であった。

宮崎博士は6カ月にわたって行なった調査報告書とライ対策についての意見書をインド政府に提出、当時の駐印大使那須皓氏の配慮で、ネール首相に会見したところ、首相は「恩師マハトマ・ガンジーは救ライを終生の悲願としていた。わたしも同じ気持ちだが、いまのインドはあまりに問題が多すぎる。救ライにはぜひ日本のみなさんの援助を得たい」と要請した。これが日本のインド救ライの出発点ということができる。

『アジア救ライ協会十年のあゆみ』の巻頭に「まずわれわれは、このライオンズクラブが投じた人道的国際奉仕の一石を銘記しておかねばならない」とうたっている。

こうしてライオンズクラブ、日本キリスト教救ライ協会、毎日新聞社、国際文化会館、全日本仏教会、全キリスト協会などが組織母体となり、昭和37年4月25日「アジア救ライ協会（JALMA）」が正式に発足したのである。

そして翌年、インド政府はJALMA現地活動のセンター用地としてUP（ウッタル・プラデシ）州アグラ市の名所タジ・マハールに隣接して、12万2000坪を提供してくれたのである。

そして、インド政府として前例のない、政府代表と日本民間団体である協会との間に、インド・センター建設とその運用に関する協定が結ばれ、昭和38年5月、東京でその調印式が行なわれた。

今ここに、その全文を書くことは避けるが、その基本となる前文と第一条の一部を記すことにする。

「JALMAとインド連邦政府ならびにUP州政府は、本計画が日本国民のインド国民に対する善意と友愛のしるしとして実施さるべきとの諒解のもとに、以下の協定を締結する」

「第一条 JALMAがインド国UP州アグラ地区タージ・ガンジの地に、ライ患者の治療、社会復帰、ならびに要員の訓練とライの調査、研究のための近代的センターを設置するにあたり、UP州政府は将来必要に応じて拡張されるべきこととして、当初少なくとも45エーカーの土地を無償で提供するものである」

それから今日まで、波乱に富んだ10年の歴史がはじまるのだ。

まず資金であるが、第一にアグラの救ライセンター建設資金2億5000万円確保のための、募金運動をもってスタートを切った。

幸いに、募金の足どりは順調で、日本のライオンズクラブも大きく協力してくれたけれども、目の前に横たわった障害はインド観光局の抗議であった。それは「世界的に有名な建造物で、内外の観光客が一年中絶えることがないタジ・マハールから1.5kmしか離れていないところにライの療養センターを建てるのは、観光上支障がある」というのであった。

これが中央議会の問題になっては、ネール首相もほってはおけず、保健大臣を現地に派遣、実情を調査させたところ、地元アグラの市、大学関係者、その他有力者は、終始「敷地変更の要なし」の立場を貫き、ネール首相のあとを受けたシャストリ首相の調整によって、昭和45年2月、那須理事長（当時）が渡印の際、シャストリ首相やナヤール保健大臣ら関係者と話し合いの結果、インド政府側から「敷地変更の要なし」という正式の回答を得、完全解決を見た。

センターはそれほど景勝の地を卜して建てられ、昭和42年1月30日、落成式を行なった。その礎石には、ネール首相の次の言葉が刻まれている。

「アジア救ライ協会インド・センターは、日本国民のインド国民に対する善意と友愛によって建設された」

そして、センターの治療棟には、

「この治療棟は、日本地区における国際ライオンズ協会が、寄贈したものである」

という標示板が掲げられている。

さて、いよいよ医療団の渡印ということになり、第1班は宮崎松記博士を団長として、一行14名がセンターへ乗りこんだのが昭和40年7月27日、つづいてその年の12月、第2班4名が到着し、翌41年1月から巡回診療が開始された。

センターの落成式は42年1月に行ない、その後入院患者と外来患者、そして、ガタンブール、エタワ、マツーラ、アグラライ病院を根拠地とする巡回診療が、医療活動の柱として定着し、47年12月までの登録患者総数は、3万6146名を数えるに至った。この医療活動に当たった宮崎院長以下職員の苦労は並々ならぬものがあった。暑熱の苦労、食物のちがいに加えて、外国人が定住して仕事をするには、あまりにも複雑な面を持つ国だけに、宮崎院長自身でさえ疲労困憊というのが実情であった。

しかし、宮崎院長はこれらの肉体的、精神的苦難を克服しつつ、その使命に向かって邁進されたのである。そのために患者の信頼は厚く、診療日の各クリニック（診療所）は門前市をなす騒ぎとなった。何十kmを遠しとせずして歩いてくる。先生の何分かの診察、治療をうけるため、何時間も列をつくって待つ。とても涙なくしては見られない風景であるが、患者の表情は真剣である。宮崎院長には神に接するような敬意——いや信仰に近い感情を持って合掌する。

宮崎博士の死

しかし、好事魔多しとでも申すか、その宮崎院長は47年6月、ニューデリー郊外で飛行機事故のため急死されたのである。

関係者は驚きを通り越して、ただ茫然とするばかりであったが、現地の患者たちは神に見放されたかのごとき、失望と悲しみのどん底に蹴落とされてしまった。

宮崎院長の誠意と熱意、そして献身的なこの奉仕は、インド政府といわず、患者といわず、関係者に大きな感銘を与えていただけに、その後任の選定は容易ならぬ問題となった。

折から、発足以来この事業に打ち込んできた理事長の藤原勘治氏が病のため辞任、後任理事長として私が就任することになった。私は外部にあって救ライ事業を支援すべきで、内部にははいりたくないと考えていたが、今はそんなことをいっておられないので、ライオンとしての立場と、救ライ協会理事長の立場と二足のわらじで、この国際的の大事業と取り組まざるを得なくなったのである。

第一に考えなければならぬことは、院長の後任である。しかし、それにしてもまずJALMAの根本

方針をきめることが大前提とならねばならぬ。

根本方針は、日印協定書からこなければならぬ。こういう観点から協定書第一条を見ると、「ライ患者の治療、社会復帰、ならびに要員の訓練とライの調査、研究」とある。

“治療”は宮崎院長がもっぱら力を入れられたところであるから、今後は、研究、調査と現地インド人要員の訓練に力を入れなければならぬ。これを大方針とすることに、インド側も異議のあるはずはない。研究、調査は、インドの全面的ライ抑制につながるものであり、インド人要員——医師、技師、薬剤師、看護夫（婦ではない）の訓練が十分徹底した暁は、本事業をインド側に引き継ぐ時期ともなるのである。

この線に沿って院長の後任を考えなければならないのは当然であるが、幸いにして、京都大学医学部教授で、微生物病研究所の西占貢博士という権威者が協力を約束してくださったので、遠からず渡印の運びになるはずである。いっぽう、これはJALMAの費用ではなく、日印両国間の双務協定に基づく、コロombo-プランにより、インド・センターを中心として両国のライ予防計画に関する研究を目的として、大阪大学医学部教授伊藤利根太郎博士が本年2月渡印、すでにセンターで研究を開始している。

かくのごとくして、JALMAの事業は期限なしのものでなく、将来これをインドに移管することがはっきりした以上、その時にただ建物や設備を引き継いだけでは無意味であり、インドのライ抑制計画はかくあるべしという、研究の成果と実証を引き渡さねばならない。したがって、JALMAの活動を悠長にやっていくことはゆるされない。インド・センターにかけられた負担が重くなったともいえるし、大きくなったともいえる。

私は国際的大事業であるJALMAの活動と本格的に取り組む決心を固めた折も折、意外な雑音に煩わされたり、関係者とディスカレジさせるような事実にもぶつかったのは全く意外であったが、その反面、涙ぐましいような、物心両面のご協力をいただいて感激する場面にもぶつかっている。

せつかくライオンズクラブが火をつけたこの国際協会らしい大事业が、立派に有終の美をなすよう、この上ともご協力を念願してやまない。

(1973年7月号掲載)

● 会員寄稿 ●

50周年を迎え かく思いかく考える

50周年を迎えて

第26代会長 三 崎 矩 光

56年1月入会以来46年経ってしまいました。

節目のたびに周年行事にかかわってきましたが、50周年を迎えるまで在籍するとは思っていませんでした。それが現実のものとなってしまう、いつの間にか日本ライオンズの数少ない生き字引となり、先輩ライオンも18人となってしまいました。

「日本ライオンズは高度成長時代も既に終わってしまい、安定成長を通り越し、いかにメンバーの減少を食い止めるかという、まさに低成長の厳しい状況に直面している。そしてライオンズ精神に胸躍らせ希望と期待に燃えた楽しい時代は遠く過去のものとなり、むしろ社会的名誉に恵まれない人々の名誉欲を満足させるための福祉施設となっているのが悲しいことではあるが、日本ライオンズの現在の姿であると言わざるを得ない。私のようにライオンズ組織の中に深くかかわりあった者は、一般メンバーの方々が知らない憂うべき現実を直接体験し、ライオンズに対して怒りと失望を感じ、限らない寂しさを痛感するのみである」

これは『30年史』に「何より大切な知性と常識」と題して書いた一文ですが、それから20年、ライオンズがますます悪化の道をたどっていることは本当に悲しいことです。

46年の間にライオンズに失望し幾度か退会を決意しましたが、退会せずに今日まできたのは、ライオニズムに心酔したわけでもなく、もしもライオンズを退会すればクラブメンバーをはじめライオンズメンバーになったがゆえに知り得た全国の数多くの友人の方々、すなわち私にとって得難い大切な財産を失ってしまう、それが唯一無二の理由です。

単一クラブは国際協会と直接結ばれており、一メンバーから国際会長までまったく平等な権利を持っており、義務と責任は一メンバーよりクラブ役員、地区役員、国際会長と次第に重くなってい

く。この2つが基本原則であり、ガバナーや地区役員はパイプ役というか、お世話係であることを忘れて人々の存在が、ライオンズが衰退していく大きな要因となっています。

日本ライオンズは10周年以来20周年、30周年、40周年と全国的に祝い事を行い、ライオンズ精神の高揚と団結を図ってきましたが、今年度の8複合地区議長連絡会議は、財政逼迫とやらを理由に50周年という大きな節目に何の行事も行わないということですが、私は先輩ライオンとして彼らに対して強く反省を求める次第です。なぜならば、このような困難な状況に置かれたときこそ、メンバーを目覚めさせるような行事を全国レベルで行って全メンバーを奮起させ、過去のものとなっているライオンズ王国をもう一度復活させる責任があると思います。今一番大切なことは「求心力」なのです。

最後に、日本ライオンズ創立50周年を契機として、全メンバー一人一人が自覚を持って“*We Serve*”、すなわち“手弁当で奉仕する”を信条として、希望と期待に満ちた未来あるライオンズを甦生させようではありませんか。表面に出てこない多くのメンバーの中に立派な見識を持った方々がおられます。どうか積極的にクラブ活動に参加して下さることを心から願う次第です。それでこそライオンズクラブの発展はあるのです。

尾上松緑さんの思い出

第39代会長 一色 浩

今は亡き名優尾上松緑こと彩藤間豊の思い出話を書く前に、どうしても触れておかなければならない出来事があった。

昭和50年1月15日に、故彩守屋俊章と故彩守田俊郎（八代目坂東三津五郎丈）と私と3人で京都でふぐを食する約束をしたが、前日私の勤務先の社員が酒に酔って会社の車を運転し、交通事故を起こすというアクシデントのため、京都行きの約束をお断りしなくてはならなかった。

ふぐが好物の三津五郎丈はきもをたくさん食べたらしく、ふぐの毒にあたって急死された。一緒だった彩守屋は三津五郎夫人に訴えられ、私と弁護士の故彩橋本は受けて立つ相談をしていた。そこへ三津五郎丈の後見役の彩尾上松緑がやってきて、2人とも好きでふぐを食べたのだから争い事にするのはおかしいということになって、松緑さんが三津五郎夫人を説得してけりがついた。

それ以来、松緑さんと私の仲が急速に親密になった。

松緑さんはいつもひざをさすりながら「ひざが痛くてしょうがないんだよ」と言っておられた。要はあの大きな体を支えているのだから、痛くなるのはあたり前の話で、私自身糖尿病のため食事制限をしているだけに、松緑さんの大ぐらいにはあきれはてていた。

一緒に茶を飲んでいると、虎屋のようかんを一竿ペロッと食べてしまうほどである。ご家族の話

によると糖尿の気もあるとのこと。

彩守屋と一緒に歌舞伎座へ行ったときのこと。松緑さんが踊っているときはさほど気にならなかったが、踊り終わってすわる所で顔をゆがめて足を折っている姿が痛々しくて、見ていられなかった。

幕が下りてしばらくしてから楽屋に見舞いに行くと、松緑さんは大きな油の多いステーキをむしゃむしゃ食べているではないか。

「こんなもの食べるから体重が減らないんだ。これでは足の痛いのは治らないよ」と言うど、

「踊るときはものすごくカロリーがいるんだ。あんたみたいに人をあごで使っているけっこうな身分じゃないからね」

「それならたまには腹を空かして踊ってみろ」

これでは見舞いではなくけんかである。

それから間もなく松緑さんは文化勲章をもらわれ、平成元年6月25日に亡くなられた。

28年目の思い

第41代会長 盛 郷 重 光

“光陰矢の如し”入会してからはや28年の歳月が過ぎた。思い返すと、素晴らしい諸先輩の面影が走馬灯のように頭をよぎる。さりげない言動の中に、数々の教訓が珠玉のようにちりばめられ、貴重な経験をさせていただいた。

私の入会当時は、130人を超える会員が在籍し、我がクラブの全盛期であった。それが残念なことに現在は60人となってしまった。何ゆえにこれほどまでに減ってしまったのであろうか。我々の努力不足もあろうが、社会経済環境の変化も見逃せない。バブル崩壊後の長引く不況、少子高齢化社会の到来等々。さはさりながら、このままの状況で放置しておいてよいのだろうか。クラブの活性化のために、私は以下の2点を提案したい。

第1点は、会員の増強である。ライオンズの基本を社会奉仕に求めれば、アクティビティの充実と会員増強は欠かせない。発足当時チャーター・メンバー56人中、21人が外国人であったことを考えると、外国人も対象としてもよいのではないか。また、女性も対象としてはどうだろうか。それぞれの入会審査基準は慎重に検討しなければならないが、もはや居心地のよさに安住して、孤高を保ってられる状況ではないと思う。

第2点は、“ライオンズの原点に返れ”と繰り返し言われるが、原点とは一体何なのだろうか。ライオンズの誓いに“われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する”といいながら、会員間の懇親に多くの時間と金を費やし過ぎてはいないだろう

か。“親睦”と“アクティビティ”のバランスをどう取るのがよいのだろうか。そこで私は、発祥の地シカゴを中心としたアメリカをはじめ、先進諸国でのクラブ運営について調べてみたいと思っている。年会費、事業費と運営費の割合、会員の構成（外国人、女性比率）等。こうした先輩クラブの事例を参考にしながら、“これからのライオンズはいかにあるべきか”50周年という節目に、徹底的に議論してみる必要があるように思う。今までの延長線で今後とも活動を続けるのか、あるいは会費の低額化を図り、会員の増強を目指しながら社会にもっとアピールするアクティビティを積極的に行うのか。おそらく意見が分かれるところだろうが、議論することに意義がある。ロータリークラブ、キワニス、あるいはNGO等と比較されても優るとも劣らぬ社会奉仕団体として、世の中に認知され続けるために。

ライオンズ生活について——最近の所感——

第43代会長 羽 鳥 藤 雄

ライオンズに入会して26有余年となる。入会当時、随分と緊張して過ごしたような気がする。特に当クラブは、ご年配のライオンが多く、それにおのおのの業界において重鎮といわれる方がおられ、なんとなく気後れがあった。もう物故された方々であるが、彩太原久之、彩酒井忠博、彩迫水久常、彩武見太郎、彩上田常隆、彩藤間豊（尾上松緑丈）、彩朝吹英一などそうそうたるメンバーが多かった。私が入会したころは、チャーター・メンバーも数人お元気でいられ、東京⁹結成の苦労話、感動された事柄など直接の体験談を聞くことができたのは幸いであった。時の流れという物差しでみると、日本のライオンズのなかでメルビン・ジョーンズに一番近い位置にあったと言えるのはチャーター・メンバーの彩古川正重、彩浜本正勝たちであるという見方ができるわけである。当然にこの先輩たちのライオンズ結成の意義や、その必要性も聞かせていただいた。荒廃した戦後を再生するための一翼を、ライオニズムを通して担うことができれば、という信念で立ち上げたという言葉もあった。

メルビン・ジョーンズの理念、ライオンズの根本思想といってもよいのかもしれないが、その究極のところは、人々に友愛の尊さを教え広めること、さらに公正無私をもって諸事万端に対処すればそこに信頼と尊敬が生まれ、その結果、共生の社会が創り出されてゆく。このような考えで結成された集団がライオンズクラブである。さりながら、日本にライオンズクラブが創られ、半世紀を過ぎると、組織のありようも、何か変化してきているように感じられる。私自身もいつのまにか入会時の情熱が失せ始めているようである。原因は組織にあるのか、私にあるのか。

時々、『ライオン誌』に掲載されている文章を読んで素晴らしいな、しっかりと理念をとらえられ、すごいライオンがいるな、よく哲学しているナァと感心させられることがある。同時に我が身を恥

ずかしく思ってしまう今日このごろである。入会当時の純真な気持ちに回帰できるか。いかなる組織も人も、時を経ると変化を起こしてくる。時々見直しをしないと崩壊の危機にさらされるのは歴史が証明している。機縁によって入会したら、もう退会したくないナァという魅力あるクラブになんとかできないものか、去っていく友との別れは悲しい。入会勧奨も大切だが、退会者を出さないエネルギーをもっと考えるべきであろう。そのためには会員のすべてが、内面的部分と帰属環境の再構築をすべきと提言したい。私も少しだけ努力をしよう。

旅と親善

第45代会長 林 田 悦 典

よく旅に出る。出逢いが好きだから。

宿泊地に着くとまずビールを味わう。

のど越しは、ひと息で心がなごむ。これが海外ならひとしお旅情がたかぶる。

たかぶりを求めて、1999年、スイスから北イタリアに遊んだ。同行11名。

成田は空があくまでも青く、秋を告げていた。アムステルダムで乗り替えチューリッヒに飛んだ。チューリッヒからバスでイタリア側のアルプス越え、「アルプスの少女ハイジ」ゆかりの村で小憩。目的地サンモリツへ向かった。

初秋というのに途中峠の道は雪だった。予定より遅れること2時間余り。偶然にもホテルは、地元ライオンズの例会場だった。フロントに聞くと今夜例会があり、1時間前に終わったという。メンバーのホテル代表者はすでに帰宅し、明日から出張の由。参考にと会員メンバーの名簿コピーをくれた。

翌朝の朝ぼらけ、ベランダから眺める森や街は淡い霧に包まれ静かに伏せていた。遠くアルプス連峰の頂だけが陽光を受け、白と黒のコントラストがより雪を白く見せていた。今日観光予定の山ピッツユルルヴァッチの頂上だけがあまりにも白く輝いていた。案内によると3450mの頂上のすぐ下に展望台があり、大型のゴンドラを途中で乗り継ぎ、たどり着くとある。重装備の冬支度で出かけた。風は強くほほを叩いた。眺める氷河もアルプスの連峰もただ絶景。脳裡に刻み込まれた。

下山も同じゴンドラ。終点行きの箱に乗って間もなく、うしろにいた女性から声がかかった。歳ころ50くらい。ドイツ系と見た。日本の方かと聞き、お役に立つことがあれば手伝うという。息子が転勤で日本にいるという。ならば、当地のライオンズの会長が幹事にお逢いしたいと昨夜の名簿を渡したら、早速携帯電話で方々に問い合わせてくれた。会長に連絡がとれ、しかも先方がホテルに訪ねてくれる約束までとってくれた。30分足らずの空間で、このような行き届いた心くばりは滅多に経験することではない。せっかくの機会だから同行した夫人たちと夕食でもと誘ったが、友

人が明日南アに帰国するので自宅で食事を準備しており、むしろ私の自宅に來いとのこと。お互いに遠慮しながら別れた。

夕刻、約束したライオンズ会長が訪ねてくれた。小柄だがスポーティな服が似合う均整のとれた体、あぶら気のない髪、好意の眼差しは奥が深かった。お互い胸につけたし字のバッジが目線となり、ひとときを歓談した。日本最初の東京²の歴史を話すと肩をすぼめて強く握手してくれた。最後にバナーを交換し、お互いのクラブの発展と健康を祈り合いながら親善の役目を果たし終えた。

おりもおり、気づかいの夫人から、これから来宅を待つ、ぜひ来いと電話を受けた。同行の夫人たちと相談し、遠慮なく訪問した。暖炉は燃え、飲みもの等十分用意してあった。日本びいきで、着物への愛着もまたかなりで、自前の着物を召して見せてくれた。家内から袖が逆に付いていると聞いたが、この場は聞き流した。夜の更けるのも忘れがちになりながら、暖炉の暖かさを胸に帰った。翌朝フロントで、友人を送る途中で立ち寄った夫人からのメモを受け取った。「HAVE A GOOD TRIP」と書いてあった。

1952年結成の東京²は50周年を迎えた。私が社会人となったのが1952年である。共通する歴史を私なりに生かしたい。昨年、ベトナム訪問のおり、ハノイとホーチミン両市でライオンズとの交歓を試みたが、現地の案内業者がその存在を知らなかった。ハワイでは、ダイヤモンドヘッド²に息子と共に訪問した。退会者をカバーする新入者が少なく、高齢者でもなかなか卒業できないと談笑した。

先年、東京²は親善委員会を作った。内外のクラブ、メンバーとの交流を密にしたい。そして、これからのライオンズを語りたい。

親睦団体でいいじゃない

第48代会長 坂下 賢三

1983年7月の入会ですから、もうすぐ19年目になります。彩池崎道男がスポンサーです。事前にライオンズクラブと東京²のことについて説明を受けておりましたが、街でL字の標語看板を目にして「何なんだろうこのライオンは」と気につけたぐらいのことで、実感としてライオンズクラブを理解できないままの入会でした。私自身、会社その他大きな組織の中で生活した経験はなく、せいぜい同業者団体や地域コミュニティの活動、運営に携わったことがあるという程度のことから、どうしても奉仕団体ライオンズクラブが理解できなかったのです。そんなことでしばらくは、けっこう小生意気（今でもそうかもしれませんが）であったこと、省みて汗顔の至りです。

ライオンズクラブは、世界最大の「奉仕団体」を標榜しております。世界ネットの大きな人的組織です。個々のクラブが繰り広げる奉仕活動を積み上げると、有数のNGOの一つであることは間違

いありません。

しかしそれでもなお、本当に「奉仕団体」なの？ との思いが心を離れません。原点に返れとよく言われます。奉仕活動の原点とは「額にする多くの汗と、足らざるところを補う少しのマナー」だと教わりました。今、足り余る時代に、時間と労力を割いて額に汗する場が、ここかしこ存在するのでしょうか。仮に奉仕の場があったとして、多くは学生や企業の若年ボランティア、あるいは医療など専門分野の人材が求められており、高年齢の我々は、よほど認識を改めないかぎり参画の場は限られます。

奉仕を標榜することにより、シカゴを頂点とする大きな組織が維持されているのでしょう。奉仕を標榜することにより、ステータスが付与されるのでしょう。しかし、一種優越性に支えられていたしバッジも、輝きを失いつつあります。ライオンズクラブの疲弊は全世界的と聞きます。倦んで情熱が薄れ、新たな感興がわいてこない、そんな思いの会員が増えています。

ライオンズクラブは、そろそろ拡大路線をやめるべきです。むしろ単会を併合し、瀕死クラブの蘇生を図るべきです。スタンスを「奉仕」から「親睦」へ多めに移し、奉仕プログラムを最小限に絞ってよいと思います。

割り切った言い方をしますと、人は負担相応の己への利を求めるものです。その利とは、「交流」「学習」「発見」など精神的な喜びのすべてです。

東京より永遠なれ。

なんとかしなきゃ

第一副会長 小 泉 駿 一

「月に2回、ランチするだけで、わずらわしいことは一切ないから」と強引に誘われて入会したものの、スポンサーは自己都合であっさり退会。

今から思えばなんでもないことなのに、当時とはつっきの悪い人ばかりに見えたものでした。

二幹会で、軽井沢、川奈に遠征したり、食べ歩きของกลุ่มに積極的に加わり、クリスマス、新年会などを経験し、とけこむ努力をしました。

先輩、友人と愉快的ライオンズライフを過ごしている昨今です。

歌田会長から「クラブ運営の活性化、会員増強」について、研究するよう仰せつかっております。

私と同世代の方や、最近入会の行動派の方々と、アフター6を活用して懇談を重ねていますが、名案があればとっくに採用されているはずで。

今のご時勢が当分続くとするれば、新規会員の増強は難しく、現有会員のドロップアウトを防ぐことの方に現実性があるように思われます。

同時期に複数で入会なさった方々は、仲間意識も強く、持ちつ持たれつのたのもしい関係にあります。

例会では、新入会員に対し先輩から声をかけ、横にすわり、打ちとけてあげてください。

各位も入会当時を思い起こしてみてもいいでしょうか。

数は力だといわれますが、政治の世界じゃあるまいし、東京²²は、少数精鋭でいいと思います。

結成当時は、外国人会員が多くおられた歴史もありますが、現在ではその参加が弊害につながるデメリットも考慮しなければならないでしょう。

女性の入会を認めては、というご意見もありますが、「伝統」に思いをいたすことも必要でしょう。

当クラブは、100年に向けて出発いたします。

ライオンズ精神の基本をみつめ、「相互理解」の実をあげてまいりたいものです。

若手のライオン諸兄も、実生活が充実してこそライオンズ活動が活性化することでしょう。

健康に留意して奮闘していただきたいと願っております。

● 座談会 ●

東京クラブの今、そして明日

出席者

神部 範生・井上 正義・堀 孝至・

位田 敏一・浜本 正信・岡田 裕(司会)

ライオンの原点を考える

司会 まもなく50周年を迎えるわけですが、ライオンの原点とは何か、それをどのように考えておられるか、というところから話を始めたいと思います。ライオンズに参加した個人的な原点、あるいは動機といったことからでもけっこうです。

浜本 私の場合は、父が東京²⁷のチャーター・メンバーだった関係で、古くからライオンズというものがある程度知っていました。彩石川欣一、彩式場隆三郎、彩迫水久常、彩武見太郎といった人たちの名前が食卓での話題のなかでしょっちゅう出てきましたし、実際お目にかかったこともあります。そういう意味では、人のつながりからライオンズに入ったということになるのでしょうか。ただ、東京²⁷ができたころというのは私も若かったですから、父や社会に対して反抗する気持ちもあって、ライオンズの活動に違和感を感じていましたね。そういうことは本来国がやるべきことではないかと。奉仕とか弱者を思う気持ちというものには早くからふれており、共感している面もあったのですが、それでもライオンズクラブというのは大人の世界が無理につくり上げた団体ではないかと思っていました。

堀 私は会員になって7年になります。「ライオンズクラブの目的」に書かれていることがたぶん原点ということになるのだろーと思います。ガバナー訪問のときに中野ガバナーも原点に戻ろーということをおっしゃっていました。会員が減少してきてライオンズの危機ということが言われていますので、そういうお話になったのでしょうか。会員減はロータリークラブもJCも同じなのですが、なかなか歯止めがかかりません。やめていく人にはやめていくだけの理由があるのでしょうか、やはりなんのためにライオンズに入っているのか、そこがあいまいになっているからではないでしょうか。原点というとそういうことを考えます。

神部 入会前は、正直いってライオンズクラブとは何かというこ



堀 孝至

とは知りませんでしたね。社交上の集まりで奉仕団体であるという程度の認識で。原点ということでは、この団体は誰のために何をするのか、組織として少しピントがずれていやしないかと今でもときどき思います。

井上 私はライオンズに15年在籍しています。私が理解しているライオンズの原点というのは、共通の目的をもって志を同じくする人たちが常に例会に出席し、メンバー同士の友情をつくるということです。そして、会員の権利・義務として例会出席、会費納入、クラブ活動への参加、地域社会によい印象を与える行動ということが挙げられているわけですが、これが現実にはなかなか難しい。会費納入は別にして、例会の出席率はよくない。委員会はたくさんあるが、ほとんどクラブとしての奉仕活動はなし。古いクラブであるがゆえに動きが鈍いということです。そしてまた、ほかのクラブと違って地域の特長が難しいということも挙げられます。原点に戻そうとすると、今こういう問題点があるわけですね。

位田 実際、奉仕活動をやらないですね。地域との関係があるのかもしれませんが、それを除いても、よそのクラブと比べるとあまりにもやらなさすぎる感じがしますね。



位田敏一

奉仕活動はどうあるべきか

司会 奉仕活動と、友人関係というかクラブ的よさを並立させていくというのがライオンズだろうと思うのですが、今は飽食の時代で、はたして奉仕が喜ばれているのだろうかと考えこむような状況ですね。初期のメンバーの方々のように高邁な理想に燃えて奉仕活動をする、実際に効果があって反響も大きい、効果があるからまた燃える、というようなことがないわけですね、今は。こういう燃えない時代にあって、奉仕活動はどうあるべきだと思いますか。

浜本 ボランティア、たとえば阪神・淡路大震災のときのようなボランティアというものが、かつての日本にはありませんでした。私は、ボランティア組織も奉仕の方法論もなかった時代に、曲がりなりにも奉仕活動に先鞭をつけ、道筋をつけたのがライオンズだと思うのですよ。ボランティアがようやく根付いてきた現代にあっては、ライオンズもある意味でかつてのような役割は終えたのかなと思っています。そうはいってもライオンズクラブ、東京第という組織は続くわけですし、次のスタートのためにまとめ直さなければならない時期なのだろうと思っています。

堀 奉仕というのは、時代によって形も違うだろうし、人によって解釈も違うと思うのです。私自身、奉仕をするためだけにライオンズに入ったわけではないのですが、だからといってなんにも奉仕活動をしていないのではなんのために入ったのかわかりません。結局のところ私としては、一発花火的な奉仕やお金だけ出す奉仕ではむなしいので、多少なりとも汗を流しながら、無理なくできて、継続できる奉仕活動をやればよいなと思っています。今の奉仕活動でもいいということですが、今後皆さんで議論して、ああしようこうしようということが出てくれば、それに越したことはない

と思いますが……。

神部 私は今、奉仕が第一義的なものなのか「スローガン」が第一義的なものなのかということを考えているわけですよ。対米テロ事件のことなどを考えると、「スローガン」はものすごく現代的なテーマを言っているのではないかと思います。一方、歴史的にみると、ライオンズは奉仕だけを目的としてつくられたものではないようですし……。そこで、俱に楽しむという意味でのクラブが原点なのではないかと思うわけです。しかし、彩堀が言わ



神部 範生

れるように、奉仕をやらずしてではなんなのだという気がしますね。その一方でまた、奉仕をするだけならライオンズでなくてもいいとも言えますし……。ところで、郊外のクラブは地域社会というのを特定できるから活発に奉仕活動していますが、東京^都というのは焦点が定まらないから非常にやりにくいですね。そういう意味で、彩堀が社会福祉委員長のときに始められた身障者を東京ディズニーランドへ連れていく活動は、いいアイデアだと思います。無理なく、てらいもなく奉仕活動ができて、気持ちいい一日を過ごせますから。

井上 奉仕、サービスというのは、自分の貴重なお金と時間を社会にどう有効に還元するかということだろうと思うのです。問題は、それをどうやったらよいのかということですね。過去にはいろいろなことをやってきて、それなりに成果があったわけですが、変革期になると相当難しい。ライオンズクラブもたくさんありますね。盲導犬のアクティビティは東京^都が火をつけたわけだけど、



井上 正義

それをライフワークにせずうっとやっているクラブがある。盲人問題をずうっとやっているところがある。献血をずうっとやっているところがある。ということで、やり方はいろいろあると思いますが……。私が幹事のときにイランの地震救援のキャンペーンを東京駅でやりましたが、それが何年ぶりの街頭での活動。私は大阪^府から転籍して8年になりますが、あれ1回だけです、街頭に立ったのは。大阪^府も古いクラブだけれども、もう少し汗をかいていますよ。東京^都は反省期にあるということですかね。

東京クラブのよさ悪さ

司会 東京^都の特異性というか、よさ悪さみたいな話をしてみたいのですが……。私としては、無理しないところとか、変にベタベタしないスマートさなどはいいい伝統だと思っているのですが……。

浜本 よい点は、ゲストスピーカーがほかよりも充実しているのではないのでしょうか。それと関係するのですが、東京^都の原点というか先達たちには、仲間と交流する楽しさ以上に現実的な意味でのプラスアルファがあったのではないかと私は思うのです。経済面はともかくとして、情報という面でかなり得をしていたのではないのでしょうか。ゲストスピーカーの話のみならず、会員同士の

会話のなかにそれがあったのではないかと、そんなふうに考えています。マイナス面というか、地域密着型でないのはやむをえないことだと思います。

堀 地域性がないというのを悪い方にとるのか、広域だからやろうと思えばなんでもできるとよい方向に受け止めるのか、両方考えられるのではないのでしょうか。身障者を東京ディズニーランドへ連れていったアクティビティは千代田区の社会福祉協議会に対するものだったわけですが、例会場が千代田区にあるから千代田区へ話をもっていったら、あちらも喜んでくれたということですね。地域というのをそう難しく考えず、大上段に構えず、やれることからやっていったらよいと思います。

井上 会員相互のコミュニケーションがもっと欲しいですね。例会ぎりぎりに来て、終わるとサッと帰ってしまう、これではちょっとさみしいと思います。東京²の場合、食事中は音楽があるのであまり話ができませんから、せめて30分くらい前に来て話をするとか、ね。そのためには同好の士の集まる会が欲しいですね、今はゴルフ会しかありませんから。以前はグルメ同好会なんかがあって、年に何回か夜集まって、コミュニケーションを図るというふうなことをやっていたのですが……。たまには夜の例会とか合同例会もいいのではないのでしょうか。楽しい例会であれば出席者も増えるし、コミュニケーションも図りやすくなりますから。例会を楽しめるものにする方法はいろいろあると思いますよ。

浜本 会員・出席委員長としては、楽しい例会、大いに賛成ですね。例会を盛り上げれば、出席者はもちろん、会員も5人や6人すぐに増えますよ。ところで、委員会というのがよくわからないのですよ。以前、教育委員会に属していたのですが、何をやっていいのかよくわかりませんでした。いつのまにか1年たって、結局終わりになってしまいました。予算がついているのに有効に使えないでいるということも問題でしょう。



浜本正信

神部 以前から、なぜやめていく会員がいるのかということを考えていたのですが、例会がなんとなく盛り上がらない、奉仕活動もやらない、委員会というのは全く不活発、そんなことでやめていくのではないかと思います。会員の減少傾向を食い止めるためには、前々から言われていることですが、例会をおもしろくすること、もうひとつは若干なりとも奉仕活動をやることではないでしょうか。

司会 私自身の経験で言えば、最初の1年くらいは居心地がよくなかったですよ。それが、テールツイスターをやらされたり、キャビネットへ出ていったりするうちにおもしろさが見えてきました。おもしろさというのは自分が動くことによって出てくるわけで、奉仕活動でも同好会でもいいのですが、やはり積極的に参加していくということが大事だと思いますね。最近入ってきた若い人たちはだいぶ様変わりしているようですがね。グループをつくって、積極的にやっているようです。

神部 私たちは、7年ぐらい前から1940年代の会というのをやっていますよ。できるだけコミュニケーションを図って会員の目減りを減らそうということを目的にして、1940年代生まれの会員たち

で3カ月に1回くらい集まって懇談しています。今は50年代生まれも加わっていますけど、そのうち別々にやってくださいと言っています。

井上 私も大阪第1時代やっていました。そういうのを増やしていけばいいと思いますね。

堀 同好の士の集まりを充実させてコミュニケーションを図るということは大切だとは思いますが、末端の活動だけではちょっとね。やはり、東京第のフレームみたいなものをきちんとしていかないといけないのではないのでしょうか。

井上 そのためには委員会を活性化させることです。現状はほとんど死んでいるようなものから。委員を適当に割り振るのではなく、適材適所を考えて組織していく、何をやっていくのか整理してみる、ということから始めないといけないと思います。

今後どのようにしていっていいのか

司会 だいぶ反省点が出てきたわけですが、東京第としては今後どのようにしていっていいとお考えでしょうか。



司会：岡田 裕

位田 せっかく日本で第1号のクラブなのだから、全国とはいわないまでも、地区のなかでリーダーシップを発揮していってほしいと思います。これは、ガバナーを出せという意味ではないですよ。そういうことなく、何かリーダーシップを発揮できることがあるのではないかと思いますのですが……。

井上 キャビネットにもっと人を出すべきですね。よそのクラブの方と接触するといろいろな動きが感じとれますからね。

神部 会歴の浅い人ほど出したらいいと思います。よそのクラブの方とのつきあいというのは大事ですし、とにかく勉強になりますよ。今現在、若い人はやる気になっているわけですから。

位田 いかによその人が熱心かというのがわかりますものね。しつこいくらいに会合をやるし……。

浜本 あとは会員増強ですね。とにかく人を増やさなくては活力が出てきませんもの。

井上 若い層に広げていくしかないでしょう。それと、女性会員も視野に入れていく必要がありますね。

神部 総括的に言ってしまうと、例会をおもしろくする、かつ奉仕をやる、会員相互のコミュニケーションを図る、そして魅力あるクラブにする。そのための要素としては、先ほど彩浜本のおっしゃった情報交換。ゲストスピーチも含めて、よそでは聞けない話を聞くことができるというメリットをつくり出すことです。

司会 それではこの辺で。長時間ありがとうございました。

資 料



●つどえライオンズ●

作詞：福岡 陽道 補佐：古川 正重
作詞：小林辰四郎 作曲：湯山 昭

あかるい出席 奉仕のころ
われ等 ライオン ライオンズ ウォー

会 員 名 簿 (入会年月)

2001年12月末現在

三 崎 矩 光
(1956年1月)
ライフメンバー

羽 鳥 藤 雄
(1975年1月)

佐 倉 泰 雄
(1983年7月)

倉 橋 泰 史
(1961年2月)
ライフメンバー

歌 田 勝 弘
(1975年6月)

坂 下 賢 三
(1983年7月)

森 末 新 一
(1963年3月)
ライフメンバー

丸 山 三 郎
(1977年12月)

小 泉 駿 一
(1983年12月)

若 林 法 雄
(1953年4月大阪C)
(1963年4月転入)

網 田 邦 彦
(1978年7月)

松 橋 功
(1984年7月)

有 竹 隆
(1965年4月)

近 藤 良 雄
(1978年12月)

林 田 悦 典
(1972年1月大阪西C)
(1976年3月転入)
(1984年9月再入会)

森 田 宏 二
(1967年11月)
ライフメンバー

石 井 正 弘
(1979年2月)

伊 藤 一 正
(1984年11月)

小宮山 宇 一
(1969年3月)

中 澤 彦 七
(1979年3月)

柴 田 博 一
(1986年6月)

池 崎 道 男
(1971年2月)

平 賀 孝
(1976年10月)
(1980年4月再入会)

寺 井 敏 雄
(1986年6月)

星 川 博 道
(1972年10月)
ライフメンバー

柿 澤 弘 治
(1980年4月)

早 川 太 己
(1987年8月)

長 宗 新 作
(1972年10月)

玉 井 外 茂
(1981年10月)

簗 島 清 人
(1987年9月)

盛 郷 重 光
(1973年11月)

巽 良 夫
(1982年5月)
ライフメンバー

和井内 清
(1987年10月)

一 色 浩
(1975年1月)
ライフメンバー

成 川 豊
(1982年7月)
不在会員

大 澤 裕
(1989年8月)

会 友

神 部 範 生
(1991年7月)

淡 輪 騰 之
(1991年7月)

岡 田 裕
(1993年6月)

後 藤 茂 彦
(1993年6月)

中 島 一
(1993年6月)

清 水 勢 介
(1993年10月)

井 上 正 義
(1986年8月大阪C)
(1994年7月転入)

堀 孝 至
(1994年11月)

位 田 敏 一
(1995年7月)

松 岡 元 樹
(1995年11月)

宮 川 一 郎
(1996年2月)

風 間 敏 英
(1996年4月)

常 盤 敏 時
(1996年7月)

管 野 升
(1997年6月)

浜 本 正 信
(1997年7月)

山 本 和 夫
(1998年2月)

村 井 隆 次
(1999年9月)

坪 井 一 高
(2000年2月)

木 場 芳 紀
(2000年6月)

岡 田 光一郎
(2000年6月)

守 田 寿
(2000年6月)

杉 山 憲 司
(2000年6月)

清 藤 太 郎
(1986年7月有楽町C)
(2001年7月転入)

田 島 久 教
(2001年10月)

島 原 健 一

黒 田 斐 雄

木 川 道 彦

光 野 健之助

長谷部 照 正

福 岡 勇之輔

岡 村 武

細 田 胖

熊 野 達 夫

須 賀 栄 一

森 岡 一 郎

杉 浦 重 敏

今 井 勇

渥 美 節 夫

犬 戸 英 健

歴代会長・幹事・会計

年 度	代	会 長	幹 事	会 計
1952—53	1	石 川 欣 一	塩 原 有	田 辺 隆
1953—54	2	大 原 久 之	豊 川 良 介	井 門 幸 男
1954—55	3	高 橋 貞 太 郎	福 田 太 郎	岡 村 武 武
1955—56	4	小 林 辰 四 郎	樋 口 杲 作	岡 村 武 治
1956—57	5	永 野 護	守 随 乙 忠 博	加 藤 栄 直 治
1957—58	6	浜 本 正 勝	酒 井 忠 利 章	原 田 部 照 正
1958—59	7	福 岡 陽 道	本 間 健 之 助	長 谷 堂 喜 健 一
1959—60	8	小 野 哲 武	光 野 保 之 助	新 島 原 士 源 太 郎
1960—61	9	岡 村 久 常	山 岡 崎 矩 治 助	鹿 士 田 元 四 郎
1961—62	10	迫 水 乙 吉 男	三 豊 田 本 裕 正	守 随 田 幸 太 郎
1962—63	11	石 田 吉 幸 雄	池 田 本 厨 長 太 郎	芦 澤 太 郎
1963—64	12	武 見 太 郎	武 樋 口 杲 博	北 小 井 島 大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1964—65	13	酒 上 田 忠 常	殖 小 笠 原 吹 岡 一 字	小 井 島 大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1965—66	14	永 井 賢 城 勇	朝 森 小 宮 山 根 崎 道	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1966—67	15	福 岡 正 重	森 小 宮 山 根 崎 道	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1967—68	16	古 川 幸 蔵	小 宮 山 根 崎 道	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1968—69	17	前 田 治 助	山 池 有 黒 長 守	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1969—70	18	豊 田 国 三 郎	池 有 黒 長 守	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1970—71	19	白 川 法 矩 光 郎	有 黒 長 守	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1971—72	20	若 三 崎 秀 郎	三 崎 秀 郎	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1972—73	21	小 笠 原 秀 郎	小 笠 原 秀 郎	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1973—74	22	小 笠 原 秀 郎	小 笠 原 秀 郎	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1974—75	23	小 笠 原 秀 郎	小 笠 原 秀 郎	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1975—76	24	小 笠 原 秀 郎	小 笠 原 秀 郎	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1976—77	25	小 笠 原 秀 郎	小 笠 原 秀 郎	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1977—78	26	小 笠 原 秀 郎	小 笠 原 秀 郎	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星
1978—79	27	小 笠 原 秀 郎	小 笠 原 秀 郎	大 持 三 原 浮 森 杉 羽 星

年 度	代	会 長	幹 事	会 計
1979—80	28	西 林 長太郎	服 部 二 郎	渥 美 節 夫
1980—81	29	森 岡 一 郎	盛 郷 重 光	歌 田 勝 弘
1981—82	30	朝 吹 英 一	一 色 鳥 藤 浩	丸 山 賀 三
1982—83	31	三 浦 文次郎	羽 鳥 澤 彦 雄	平 井 井 孝
1983—84	32	池 崎 道 男	中 網 田 邦 彦	今 盛 重 光
1984—85	33	小宮山 宇 一	綱 長 宗 新 作	杉 浦 重 敏
1985—86	34	尾 関 進	35 宍 戸 川 健	35 坂 下 井 賢 三
1986—87	35	今 井 勇	36 成 坂 下 泉	36 玉 新 網 田 雅 邦 夫
1987—88	36	有 星 川 博	37 有 星 川 博	37 有 星 川 博
1988—89	37	一 長 宗 新	38 一 長 宗 新	38 一 長 宗 新
1989—90	38	一 盛 巽 良	39 一 盛 巽 良	39 一 盛 巽 良
1990—91	39	一 盛 巽 良	40 一 盛 巽 良	40 一 盛 巽 良
1991—92	40	一 盛 巽 良	41 一 盛 巽 良	41 一 盛 巽 良
1992—93	41	一 盛 巽 良	42 一 盛 巽 良	42 一 盛 巽 良
1993—94	42	一 盛 巽 良	43 一 盛 巽 良	43 一 盛 巽 良
1994—95	43	一 盛 巽 良	44 一 盛 巽 良	44 一 盛 巽 良
1995—96	44	一 盛 巽 良	45 一 盛 巽 良	45 一 盛 巽 良
1996—97	45	一 盛 巽 良	46 一 盛 巽 良	46 一 盛 巽 良
1997—98	46	一 盛 巽 良	47 一 盛 巽 良	47 一 盛 巽 良
1998—99	47	一 盛 巽 良	48 一 盛 巽 良	48 一 盛 巽 良
1999—00	48	一 盛 巽 良	49 一 盛 巽 良	49 一 盛 巽 良
2000—01	49	一 盛 巽 良	50 一 盛 巽 良	50 一 盛 巽 良
2001—02	50	一 盛 巽 良	一 盛 巽 良	一 盛 巽 良

物 故 者 (※はチャーターメンバー)

2001年12月末現在

※ 田 辺 隆 (1953年11月10日)
 ※ 立 上 秀 二 (1954年 8 月 2 日)
 伊 澤 義 為 (1955年11月 2 日)
 二 宮 新 (1957年10月11日)
 田 中 茂 (1958年 9 月 5 日)
 ※ 石 川 欣 一 (1959年 8 月 4 日)
 武 内 亀之助 (1965年 7 月 7 日)
 式 場 隆三郎 (1965年11月21日)
 与 良 エ (1968年 4 月11日)
 坂 本 正 (1969年 3 月 3 日)
 安 田 金 吾 (1969年 5 月 1 日)
 穴 澤 六 郎 (1969年 9 月10日)
 永 野 護 (1970年 1 月 3 日)
 宇 野 庄 治 (1970年 2 月 3 日)
 高 橋 貞太郎 (1970年10月 1 日)
 猿 渡 喜一郎 (1971年 9 月13日)
 三 井 定 雄 (1972年 2 月23日)
 秋 尾 栄 (1973年 5 月 2 日)
 山 口 利 吉 (1973年 7 月25日)
 福 岡 勇 (1973年12月22日)
 大 橋 保 男 (1974年 1 月18日)
 田 中 勉 (1974年 2 月20日)
 鈴 木 武 (1974年10月29日)
 守 田 俊 郎 (1975年 1 月16日)
 加 藤 栄 治 (1976年 4 月19日)
 長谷川 萬 治 (1976年12月 6 日)
 迫 水 久 常 (1977年 7 月25日)
 ※ 塩 原 有 (1977年 7 月30日)
 栗 田 正 夫 (1978年 9 月16日)
 酒 井 忠 博 (1978年12月 9 日)
 小笠原 秀 郎 (1979年 2 月28日)
 中 屋 真 一 (1979年 8 月28日)
 芦 澤 大 義 (1979年11月 8 日)
 万 代 政治郎 (1979年11月18日)
 中 澤 彦 七 (1979年11月20日)
 松 本 裕 (1980年 1 月 7 日)
 能 澤 正 義 (1980年 1 月13日)
 ※ 石 田 吉 男 (1980年 7 月10日)

三 厨 正 (1980年10月14日)
 上 田 常 隆 (1980年10月14日)
 中 山 理 々 (1981年 7 月27日)
 西 林 長太郎 (1981年 9 月23日)
 ※ 石 関 信 助 (1982年 5 月14日)
 白 川 国三郎 (1983年 2 月13日)
 浮 田 祐 二 (1983年 2 月24日)
 武 見 太 郎 (1983年12月20日)
 成 田 清 治 (1984年12月16日)
 殖 栗 文 夫 (1985年 5 月18日)
 中 山 富 士 (1985年 6 月21日)
 池 田 幸 雄 (1985年 7 月 2 日)
 森 卯一郎 (1985年11月14日)
 三 崎 友 一 (1985年12月 5 日)
 前 田 幸 藏 (1986年 2 月13日)
 谷 藤 正 三 (1986年 7 月30日)
 貝 川 宏 夫 (1987年 3 月31日)
 永 井 賢 城 (1987年 6 月 4 日)
 ※ 大 原 久 之 (1987年 7 月 1 日)
 福 岡 陽 道 (1988年 9 月11日)
 北 岡 源太郎 (1989年 4 月26日)
 藤 間 豊 (1989年 6 月25日)
 竹 岡 稜 一 (1990年 8 月25日)
 坪 井 一 郎 (1990年12月 4 日)
 牧 野 増 雄 (1991年 2 月 3 日)
 朝 吹 英 一 (1993年 6 月14日)
 風 間 敏 男 (1995年11月 1 日)
 ※ 浜 本 正 勝 (1996年11月21日)
 矢 野 正 康 (1998年 4 月 1 日)
 ※ 古 川 正 重 (1998年 5 月25日)
 櫻 田 雅 昭 (1998年 8 月12日)
 守 田 光 伸 (1999年 4 月 1 日)
 藤 本 敬 三 (1999年 8 月 5 日)
 新 雅 夫 (2001年 4 月23日)
 長谷川 剛 (2001年 8 月19日)

退 会 者 (※はチャーターメンバー)

2001年12月末現在

古 川 緑 波 (1952年6月)	※ 星 島 二 郎 (1955年10月)	亀 井 多 計 雄 (1957年4月) 転籍
※ 松 島 喜 作 (7月)	鈴 木 佐 内 (")	小 谷 虎 次 郎 (") "
※ 山 中 清 三 郎 (")	前 田 洋 治 (")	工 藤 敏 博 (") "
※ 岡 松 成 太 郎 (8月)	横 山 忠 雄 (")	細 山 武 夫 (") "
※ G.Krakower (9月)	※ 今 村 栄 吉 (1956年1月)	佐 藤 信 助 (5月)
※ 吾 妻 貞 勝 (10月)	※ 桜 庭 政 雄 (")	斉 見 昌 平 (6月)
※ 津 末 京 二 (")	J.A.Gracewicz (")	松 岡 源 之 真 (8月)
※ G.B.Morgulis (11月)	新 美 堅 太 郎 (2月)	Peter 岡 田 (9月)
※ J.S.Sykes (")	間 中 義 三 (")	津 田 隆 治 (")
※ I.Szpiro (")	P.J.Demetros (3月)	岩 田 義 雄 (10月)
※ S. Haar (")	高 島 得 之 (6月)	桑 原 用 二 郎 (12月)
※ 牧 野 澄 雄 (")	津 久 井 七 々 雄 (")	木 村 保 (")
※ 田 中 弘 之 (12月)	野 間 海 造 (7月)	山 岡 重 孝 (")
※ J. T r o p p (")	M. C h a n g (")	※ 日 比 野 恒 次 (1958年1月)
※ 友 成 誠 (")	松 本 敏 夫 (8月) 転籍	尾 和 吉 次 郎 (2月)
※ 堂 本 拳 次 (")	角 張 真 輔 (10月)	原 田 直 治 (6月)
※ 近 藤 幹 (")	山 田 忍 三 (11月)	小 鴨 鉄 也 (")
※ 南 江 治 郎 (")	青 木 大 吾 (12月)	真 殿 益 造 (7月)
※ W.F.Provost (")	窪 寺 五 雄 (")	若 菜 三 郎 (8月)
※ L. Sarreal (")	江 藤 巖 (1957年1月)	中 西 小 一 (9月)
※ 清 水 Kazutaka (")	黒 崎 城 平 (")	松 本 勝 司 (10月) 転籍
※ F.C.D.Rosa (1953年1月)	伊 藤 忠 孝 (") 転籍	原 春 吉 (11月) "
※ 石 田 博 (")	小 林 利 雄 (") "	小 川 道 之 助 (") "
※ V.O.Cobarrubias (2月)	笠 井 朝 義 (") "	仲 田 治 (") "
※ J.B.Bolano (3月)	勝 田 雄 次 郎 (") "	笹 村 越 郎 (") "
※ H.N.Borger (")	三 好 万 寿 雄 (") "	角 田 義 雄 (12月)
※ A. C h u h (")	水 野 弥 三 (") "	秋 根 章 (1959年1月)
※ J. Farrell (")	水 谷 巖 (") "	別 所 鎮 雄 (")
※ 伊 集 院 郁 三 郎 (")	奥 山 清 平 (") "	笹 村 順 造 (")
※ J.O.Rechter (6月)	※ 西 郷 徳 男 (") "	橘 英 雄 (")
※ A. Shvets (")	高 洲 湘 二 郎 (") "	井 上 宗 大 (") 転籍
※ R.L.Beddillion (10月)	竹 崎 宇 一 (") "	山 浦 利 器 衛 (3月)
※ A. H a t e m (")	山 川 隆 雄 (") "	福 井 近 夫 (9月)
※ 則 武 東 平 (1954年1月)	Keneth 安 田 (2月)	本 田 勇 男 (10月)
※ 豊 川 良 之 介 (")	池 田 栄 一 (") 転籍	株 木 正 郎 (")
※ 津 末 宗 一 (")	剣 持 勇 (") "	島 崎 千 里 (")
安 田 実 (3月)	岡 田 武 雄 (") "	吉 田 正 一 (12月)
山 田 四 郎 (")	沢 勝 蔵 (") "	田 中 治 郎 左 衛 門 (")
※ J.M.Ferris (")	塚 本 憲 甫 (") "	佐 野 巖 (1960年1月)
※ 藤 沢 伝 (8月)	菅 波 弥 事 (3月) "	若 林 秀 雄 (")
宮 田 重 雄 (10月)	市 川 惣 三 郎 (")	小 安 哲 史 (")
W.Nicholas (12月)	安 藤 清 太 郎 (4月) 転籍	谷 口 貞 固 (3月)
M. H o u d a (1955年5月)	福 島 正 雄 (") "	小 貫 頼 慶 (") 転籍
牛 山 清 人 (7月)	西 野 政 雄 (") "	藤 沢 良 雄 (1960年6月) "

宮内 俊之 (1960年6月) 転籍	橋林 博太郎 (1965年6月)	新野 晃三 (1972年8月)
神山 真 (")	※ 広部 賢二 (")	本間 利章 (1973年11月)
平岡 弘男 (")	岡田 伍佐久 (7月)	藤井 寛 (12月)
高橋 武雄 (8月)	小林 辰四郎 (10月)	清水 八十治 (1974年1月)
吉田 秀太郎 (1961年3月)	下岡 忠一 (11月)	森 信夫 (")
吉田 英夫 (6月)	林 信男 (12月) 転籍	小野 哲 (2月)
G. Bruner (")	吉益 敬一 (1966年1月) *	小林 真賛雄 (")
田口 連三 (")	乙部 実 (4月)	榎山 幸夫 (6月)
藤本 正雄 (")	久邇 邦昭 (5月)	藤川 敏行 (")
内藤 一男 (7月) 転籍	小林 利助 (6月)	横山 祐吉 (")
J.J. Mc Sweeney (9月)	末田 義有 (7月)	堀 朋介 (")
中川 俊思 (")	古川 萬三 (12月)	三浦 専衛 (")
永野 巖雄 (10月)	観世 正司 (")	細見 一郎 (10月)
高橋 威夫 (")	並河 栄治郎 (1967年1月)	中村 栄一 (1975年2月)
和田 康宏 (1962年2月)	平野 清 (3月)	小野 四郎 (6月)
叶 善治郎 (")	小野 達郎 (5月)	川辺 正夫 (")
今木 万寿男 (4月)	長井 貞義 (6月)	中川 馨 (")
三枝 正勝 (7月)	鈴木 論一 (")	龍村 晋 (")
酒井 直衛 (")	富永 誠美 (")	三輪 義明 (7月)
横山 忠雄 (")	勝野 基信 (")	広谷 豊蔵 (")
吉本 武一 (1963年2月) 転籍	村山 甚一 (9月)	渡辺 尚俊 (11月)
武田 透 (")	石川 準吉 (10月)	城戸 尚夫 (12月)
片倉 亮平 (")	山内 英麿 (11月)	横島 忠三 (")
阪田 一夫 (3月) 転籍	井垣 薫 (1968年1月)	鈴木 樽一 (1976年1月)
門脇 良教 (")	小山田 泰彦 (4月)	斉藤 和夫 (")
磯江 道夫 (")	大堀 弘 (")	鹿士 源太郎 (6月)
藤見 太郎 (6月)	山田 松之助 (6月)	斉藤 祐義 (")
小松 繁 (")	菊島 奕仙 (")	守随 乙作 (")
福田 英雄 (")	武内 平三郎 (7月)	荒木 佐七 (")
千田 真清 (")	三輪田 元也 (")	伊藤 雄之助 (9月)
榎田 恭一郎 (9月) 転籍	山城 丞二 (")	篠木 達夫 (10月)
五味 弘 (11月) *	山岡 保之助 (10月)	秋元 時一郎 (11月)
増茂 昌夫 (")	数佐 三郎 (")	原田 慶司 (1977年4月) 転籍
江口 謙吉 (")	船橋 要 (11月)	別府 英一 (6月)
高橋 毅 (")	下山田 政友 (1971年1月)	新堂 喜作 (")
松田 秀一 (")	C. Boyd (3月)	菅野 新太郎 (")
井上 寿郎 (1964年1月)	山口 季次 (6月) 転籍	富松 規行 (")
菱 隆文 (4月) 転籍	森本 一三 (")	八木 治郎 (1978年1月)
橋 八 (10月) *	三好 道矢 (")	荒井 好民 (6月)
八十島 親義 (12月)	安藤 陣一 (8月)	石黒 長治 (")
越原 襄 (1965年1月)	小竹 永三 (11月)	瀧浦 潤 (")
木下 茂 (2月)	宮野 武雄 (12月)	土井 一良 (1979年6月)
池田 正久 (6月)	松任 竹磨 (1972年1月)	小泉 武 (")
池田 満 (")	※ 福田 太郎 (6月)	楠原 昌樹 (")

金 子 為 雄 (1979年6月)	助 安 真 一 (1988年12月)	高 橋 浩 二 (1997年1月)
前 田 正 男 (〃)	田 中 昭 也 (〃)	服 部 二 郎 (5月)
※ 中 根 麟之助 (7月)	橋 本 根 順 (1989年1月)	飯 嶋 嶋 三 (〃)
島 原 健 一 (1980年4月)	山 野 実 (6月)	小 池 博 (12月)
黒 田 斐 雄 (6月)	岡 崎 彰 (9月)	中 根 滋 (1998年6月)
広 江 欣四郎 (〃)	宮 崎 久 彦 (1990年1月)	神 岡 篤 司 (〃)
持 田 信 夫 (7月)	北 村 洋 明 (1991年9月)	小 穴 雄 康 (〃)
友 成 靖 一 (8月)	村 松 寿 (〃)	上 村 昭 治 (〃)
松 波 鉄 治 (1981年1月)	笠 原 進 (10月)	渥 美 節 夫 (7月)
沢 田 隆 治 (〃)	塩 瀬 雅 士 (〃)	金 子 輝 夫 (9月)
谷 川 寛 三 (2月) 転籍	八 尋 四 朗 (〃)	大 西 幸 四郎 (〃)
木 川 道 彦 (6月)	菊 地 淳 (1992年1月)	式 場 聰 (〃)
金 子 達 一 (〃)	谷 川 正 二 (4月)	天 野 勝 伸 (1999年1月)
清 藤 志 郎 (〃)	熊 谷 敦 (6月)	松 村 清 馬 (6月)
守 屋 俊 章 (1982年6月)	大 谷 袈 次 (7月)	金 子 崇 輔 (〃)
古 田 稔 (〃)	竹 下 博 之 (〃)	萩 野 敏 裕 (〃)
岩 間 英 雄 (〃)	細 田 胖 (1993年6月)	桜 井 清 (9月)
岸 田 静 夫 (〃)	角 田 省 一 (〃)	落 合 義 則 (〃)
佐 野 孝 雄 (1983年6月)	岡 村 武 (〃)	長 谷 川 晴 一 (12月)
光 野 健之助 (〃)	安 岡 彰 一 (〃)	長 塚 宗 久 (2000年2月)
鍛 治 田 進 (8月)	大 野 雄 人 (9月)	福 島 正 則 (3月)
戸 塚 元 一 (1984年1月)	柳 沢 一 正 (〃)	青 柳 脩 (〃)
三 澤 大 介 (2月)	田 口 豊 (〃)	山 根 高 志 (6月)
樋 口 泉 (6月)	木 田 準 一 (〃)	後 藤 典 雄 (7月)
長 谷 部 照 正 (〃)	青 木 貞 夫 (〃)	平 野 俊 治 (10月)
武 田 昭 彦 (〃) 転籍	平 原 嘉 治 (1994年3月)	山 田 慶 七 (11月)
弘 松 昌 義 (7月)	北 野 寿 (6月)	六 戸 英 健 (2001年6月)
高 見 沢 宏 (12月)	尾 関 進 (〃)	阿 久 津 誠 (〃)
伊 賀 元 (1985年6月)	高 橋 正 宜 (7月)	三 井 啓 太 郎 (〃)
岸 益 實 (7月) 転籍	三 浦 文 次 郎 (12月)	藤 島 弘 之 (〃)
入 江 恒 志 (9月) 〃	榎 木 進 (1995年2月)	佐 藤 邦 明 (11月)
清 水 重 亮 (1986年6月)	熊 野 達 夫 (5月)	
松 浦 弾 (〃)	須 栄 一 (〃)	
土 井 勇 (〃)	柿 沢 國 男 (〃)	
豊 田 治 助 (〃)	村 田 治 平 (9月)	
小 島 正 五 郎 (〃)	掛 川 悌 旦 (1996年1月)	
前 田 敏 彦 (9月)	末 政 圭 三 (〃)	
福 岡 勇之輔 (1987年3月)	増 田 寿 男 (2月)	
辻 村 好 雄 (4月)	飯 田 光 男 (6月)	
※ 井 門 幸 男 (6月)	今 井 勇 (〃)	
金 沢 辰 次 郎 (1987年7月)	森 岡 一 郎 (〃)	
松 村 祐 二 (12月)	杉 浦 重 敏 (〃)	
高 橋 進 (1988年2月)	牧 野 一 巳 (9月)	
木 口 弘 之 (6月) 転籍	近 藤 克 彦 (10月)	

スポンサー・クラブ

MANILA (HOST) LIONS CLUB

スポンサーしたクラブ

クラブ名	結成年月日	クラブ名	結成年月日
1 横 浜 ^{クラブ}	(1952年 8 月 6 日)	11 東 京 芝 ^{クラブ}	(1958年 6 月 26日)
2 神 戸 ^{クラブ}	(1953年 2 月10日)	12 市 川 ^{クラブ}	(1961年 2 月 1 日)
3 札 幌 ^{クラブ}	(1956年 2 月28日)	13 川 口 ^{クラブ}	(1961年 5 月 8 日)
4 函 館 ^{クラブ}	(1956年 9 月 3 日)	14 伊 東 ^{クラブ}	(1961年12月 5 日)
5 青 森 ^{クラブ}	(1956年12月12日)	15 日 立 ^{クラブ}	(1962年 1 月22日)
6 東京新橋 ^{クラブ}	(1957年 1 月30日)	16 日 光 ^{クラブ}	(1963年 1 月26日)
7 東京渋谷 ^{クラブ}	(1957年 2 月 8 日)	17 千 葉 ^{クラブ}	(1963年 3 月28日)
8 仙 台 ^{クラブ}	(1957年 4 月 5 日)	18 東京練馬 ^{クラブ}	(1963年 3 月29日)
9 東京日本橋 ^{クラブ}	(1957年 4 月12日)	19 東京世田谷 ^{クラブ}	(1963年 3 月30日)
10 甲 府 ^{クラブ}	(1957年10月17日)		

シスタークラブ

TAIPEI (HOST) LIONS CLUB	1968年10月 1 日提携
MANILA (HOST) LIONS CLUB	1968年11月18日提携
SEOUL LIONS CLUB	1969年 7 月 3 日提携

編集後記

多くの方々があまりご存じない50年間の前半のことを知っていただきと思い、それを中心にまとめてみました。なおかつ、記録よりも読んで楽しめる内容にいたしました。

先輩の書かれた文章の中にチャーター・メンバー57人とありましたが、認証状の名前を数えると56人です。この記念誌においては、認証状に従ってチャーター・メンバー56人といたしました。書かれた先輩には、冥土のライオンズクラブでお会いしたときに確認したいと思っております。ただ、それもいつのことやらわかりませんので、これからも56人とさせていただきます。

50周年にあたり、清水彩と二人三脚で日本ライオンズ50周年記念郵便切手の発行を実現できたことは、私のライオンズライフにとって忘れることのできない大きな思い出となりました。(三崎矩光)

本誌の編集を引き受けて本当に良かったと今思っている。ここに掲載した文章の数倍の資料を読み、先輩たちの行動を考察した。そのために使った時間や労苦はいかほどのものでもない。その過程で知った先輩ライオン諸兄の夢多く格調の高い生き方に大いに感動させられ、楽しい時間を持った。わずか数十年前なのに昔の人は偉かったと改めて知り、我が身の卑小を反省する。

ライオンズ・クラブライフを生かすにはまず何らかの活動に参加すること。そこから思わぬ感動を発見し、大きな徳を得るということを知った。途中まで編集に携わっていた会友穴戸彩に喜んでもらえれば本望である。(岡田 裕)

平成5年秋、皆様の仲間入りを許されて8年。今夏は、いよいよ会社の役員定年。残念ながら退会させていただきます。願みれば一瞬の光芒にも似た8年。多様な方々との交流は人生の肥やしとして貴重。過日の理事会でテロ被災者の救援カンパ審議の際、アメリカ？ アフガン？ と一瞬の戸惑い。アフガンと思ったとき、T氏がアフガンと発言。やはりと思ったが、大勢はアメリカ。この多様性もわが東京の宝の一つ。最後に皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げ、惜別の辞を兼ねて編集後記に代えさせていただきます。

(清水勢介)

今回、本書の編集にかかわった際に当クラブに保存されていた古い資料を読んだ。東京結成時の秘話や先輩ライオンの苦闘、輝かしいアクティビティの数々に感動した。限られた紙面なのですべてを掲載できず残念だ。貴重な資料も時間がたつと散逸してしまう恐れがある。これを機会にライオン誌の事務所で保管することを検討してほしい。

ライオニズムの原点は、会員相互の信頼と友情の交流を大切に、アクティビティに感動と感激を覚えることにある。しかし、最近のクラブ活動は、惰性とマンネリに流れていると危機感を抱くメンバーが増えている。

当クラブの50周年記念行事の一環として刊行された本書であるが、単に過去の実績を誇り、感謝の祝宴の資料に留まるのではむなしい。ライオンズクラブのさらなる発展と飛躍の一助とされんことを切望する。

(井上正義)

東京ライオンズクラブ50周年記念誌

発行日／2002年3月15日

発行／東京ライオンズクラブ

〒104-8501 東京都中央区八丁堀一丁目5番1号
本八重洲ビル4階

編集／東京ライオンズクラブ50周年記念誌部会

三崎矩光・岡田 裕・清水勢介・井上正義

編集協力／ライオン誌日本語版委員会

有限会社フォリオ

原 武夫（執筆）・伊藤嘉彦（撮影）

印刷／凸版印刷株式会社
